

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育原理	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
「保育とは何か」、保育所、幼稚園、認定こども園の保育(教育)の基本を説明する。また、保育者の仕事がどのように位置づけられ、何が期待されているのか考え、理解を図る。					
【授業の到達目標】					
保育の理念・役割・制度・実践を、保育所保育指針をふまえ、理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育について		保育の理念、保育所と保育士の社会的役割と責任		
2	子どもと保育に関する法令①		子ども家庭福祉における保育と関係法令		
3	子どもと保育に関する法令②		児童福祉施設の種類とその目的、子ども・子育て支援新制度		
4	子どもと保育に関する法令③		地域子ども子育て支援事業		
5	保育所について学ぶ①		保育所保育指針とは、保育所の目的と役割、保育所保育の目標		
6	保育所について学ぶ②		保育に関わるねらい及び内容、小学校との連携		
7	幼稚園について学ぶ		幼稚園教育の目的、目標、保育方法の基本原則		
8	幼保連携型認定こども園について学ぶ		幼保連携型認定こども園の目的、目標、内容		
9	保育所保育の方法		環境を通して行う保育、保育所保育の方法		
10	保育の計画と評価		保育の計画、保育の過程、部分実習指導案		
11	子どもの理解に基づく保育		子どもの発達過程の理解と保育、個人差に応じた保育		
12	地域社会で行う子育ての支援		各施設や地域の人たちによる子育て支援		
13	障害児を受け入れる保育		障害児保育について、保護者及び関係機関との連携		
14	保育の歴史		幼児教育・保育をめぐる動向、教育・保育思想		
15	日本の保育の現状		子ども・子育て支援新制度の誕生、幼保一元化		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、提出物・受講姿勢40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
岡田耕一(編著)『保育原理 子どもの保育の基本理論の理解』萌文書林、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子どもの保健	担 当	片倉 孝子 (実務経験者)		
			病院に看護師として勤務		
【授業の概要】					
子どもの命を守り、健やかな育ちを支える為に必要な医学的知識を理解し、適切な判断ができる保育者になれるよう基本的な知識と対応技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・子どもの心身の成長と発達を理解する。 ・子どもの健康状態の把握、主な症状が理解できる。 ・子どもの主な疾患の特徴が理解できる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの生命・情緒の安定、保健活動の意義と目的		保育の対象となる子どもを理解し、生命の保持・情緒の安定を考える		
2	健康の概念と健康指標		健康の概念とヘルスプロモーション「QOL」について考える 健康を理解するための指標の理解		
3	子どもの健康と母子保健対策		母子保健対策と医療対策の理解		
4	地域における保健活動・虐待防止		母子保健、成人保健、高齢者保健、感染症対策、学校保健の概要、児童虐待とは		
5	身体発育および運動機能の発達と保健		子どもの発達過程「身体発育運動機能の発達」		
6	生理機能の発達と保健		循環機能、消化機能、腎機能の解剖学と疾病との関連について理解する		
7	健康状態の観察および心身の不調の早期発見		子どものバイタルサイン、症状の理解ができる		
8	発育・発達の把握と健康診断		個々の発育、発達の確認、チェック方法を獲得し子どもの発達支援につなげる		
9	保護者との情報共有		「気づき」のズレがないよう保護者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ		
10	子どもの主な疾病の特徴①		新生児の病気の特徴、先天性疾患の特徴の理解		
11	子どもの主な疾病の特徴②		循環器、呼吸器、血液、消化器の病気の特徴の理解		
12	子どもの主な疾病の特徴③		アレルギー、免疫、腎泌尿器、内分泌の病気 アナフィラキシーショックの対応が実践できる		
13	子どもの主な疾病の特徴④		脳の病気、その他の病気の特徴の理解		
14	子どもの主な疾病の特徴⑤		感染症の理解、スタンダードプリコーションの理解		
15	子どもの主な疾病の予防と適切な対応		感染経路を理解し対応を適切に行うための知識の理解		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査80点、受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松田博雄・金森三枝(編)『新・基本保育シリーズ⑪ 子どもの保健』中央法規、2019					
【参考書】					
赤ちゃんの病気新百科・育児の基本辞典その他、必要に応じ紹介する。					
【備 考】					
コロナ感染状況を踏まえ、グループワークや実技等は状況に応じて実施する。					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(健康Ⅰ)	担 当	工藤 冨		
【授業の概要】					
乳幼児の身体の発達や運動発達を理解させるとともに、領域「健康」の視点から健康な生活の基盤をどう育てていけばよいか学びを深めるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「健康」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。 ・乳幼児の身体の発達や生活習慣、運動発達について理解する。 ・乳幼児期の安全について考えることができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業の進め方、成績評価の方法などについて		
2	保育内容・領域の基本		5領域とねらい及び内容について		
3	保育の基本と領域「健康」		保育の基本と保育者の役割、領域「健康」の特徴		
4	子どもが健康に育つために求められること		養護が基本の保育、領域「健康」に求められる多様さ		
5	えのくま幼稚園園児の観察・触れ合い①		園児の観察や触れ合いをとおして身体の形態的発達を知る		
6	乳幼児期の身体の発達と健康		身体の形態的発達、身体の機能的発達		
7	乳幼児期の生活リズムと生活習慣		生活リズムの現状と課題、基本的生活習慣の現状と課題		
8	乳幼児期の食生活		子どもの食を取り巻く現状と課題、楽しい食の支援について		
9	アレルギー		アレルギー発症のメカニズム、食物アレルギーへの対応		
10	乳幼児期の運動発達①		乳児期の運動発達の特徴		
11	乳幼児期の運動発達②		遊びの重要性、運動遊びが育むたくましい心		
12	えのくま幼稚園園児の観察・触れ合い②		園児の観察や触れ合いをとおして運動発達の特徴を知る		
13	乳幼児期の安全①		乳児・1～2歳児の安全、3歳児以上の安全		
14	乳幼児期の安全②		安全教育と危険の捉え方、子どもの事故と怪我		
15	まとめ		授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、受講姿勢・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
河邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則(編著)『新しい保育講座⑦ 保育内容「健康」』ミネルヴァ書房、2020 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(人間関係Ⅰ)	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
乳幼児が人との相互的関わりを通して発達していくことを理解した上で、「自立心を育て人とかかわる力の基礎を培う」ための望ましい指導及び援助について事例を通して学びを深める。					
【授業の到達目標】					
・養護及び教育に関わる保育内容の関連性を理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 ・領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 ・さまざまな事例を通して、人と関わる力の発達、及び、その基礎を培うための保育者の役割について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児教育の基本①		幼児期に育みたい資質・能力、養護と教育の一体性		
2	幼児教育の基本②		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿①、主体的・対話的で深い学び		
3	幼児教育の基本③		幼児期の終わりまでに育ってほしい姿②、環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導・援助、計画的な環境の構成について		
4	保育者の役割、領域「人間関係」のねらい		保育者の役割キーワード、領域「人間関係」のねらい及び内容		
5	乳幼児期の発達と領域「人間関係」①		愛着の形成、自我の芽生え等 0歳児		
6	乳幼児期の発達と領域「人間関係」②		自我の芽生え・第一次反抗期等 1・2歳児		
7	乳幼児期の発達と領域「人間関係」③		友だちとの出会いを通して 3歳児		
8	乳幼児期の発達と領域「人間関係」④		友だちとの出会いやぶつかりを通して 4・5歳児		
9	人とかかわる力を育む保育者のかかわり①		信頼関係の構築及び自己主張を支える保育者の役割		
10	人とかかわる力を育む保育者のかかわり②		子ども同士の関係をつなぐ保育者の役割		
11	人とかかわる力を育む保育者のかかわり③		自立を支える、人間関係の広がりを見守る保育者の役割		
12	遊びのなかの人との関わり①		人と関わる力、ルールのある遊びの事例		
13	遊びのなかの人との関わり②		人と関わる力、「絵本」から広がるごっこ遊びの事例		
14	家庭生活を通して育つ人とかかわり		愛着や基本的信頼関係の形成、価値観やルール等		
15	まとめ		学びの振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
定期考査70点、提出物10点、積極的な受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)岩立京子(編者)『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
『0・1・2・3・4・5歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活』保育研究会 著 郁洋舎					
【備 考】					
乳幼児期の子どもの発達や遊びの状況などに関心を持ち、情報の収集に努めましょう。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(表現Ⅰ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
乳幼児の遊びや生活、表現の特徴、発達の様、それを促す保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 ・乳幼児の表現の特徴や表現の発達、それを促す要因について理解する。 ・さまざまな事例を通して、豊かな感性や表現する力、及び、その基礎を培うための保育者の役割について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児教育の基本①		幼児教育の捉え方		
2	幼児教育の基本②		環境を通しての保育、遊びを通しての総合的な指導		
3	幼児教育の基本③		保育者の役割		
4	幼児教育と領域「表現」①		領域「表現」のねらい及び内容 乳児、1歳以上3歳未満児		
5	幼児教育と領域「表現」②		領域「表現」のねらい及び内容 3歳以上児		
6	乳幼児期の発達と表現①		豊かな表現を支える援助や環境 乳児、1歳以上3歳未満児		
7	乳幼児期の発達と表現②		豊かな表現を支える援助や環境 3歳以上児		
8	生活のなかにあるものをあじわい、感性を養う		色・形、歌・動き、手触り		
9	自然やものの美しさに触れる		自然の美しさに触れる、共にあじわい表現する		
10	コミュニケーションとしての表現		まねる・見せる、友だちを受け止める・話し合う		
11	保育者が支える表現①		表現を支える保育者の基本的なあり方		
12	保育者が支える表現②		豊かな表現を支える援助や環境		
13	子どもの豊かな感性と音楽表現		乳幼児にとっての音楽表現とは		
14	子どもの豊かな感性と造形表現		乳幼児にとっての造形表現とは		
15	領域「表現」の現代的課題と新たな試み、まとめ		現代における「表現」の問題、表現の評価、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、提出物・受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜口順子(編)『新訂 事例で学ぶ保育内容〈領域〉表現』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	造形表現Ⅰ	担 当	工藤 祐子		
【授業の概要】					
ワークシートによる演習を通して、造形表現の指導に必要な資質や能力を身に付けさせる。また、子どもの描画理解を深めさせ、発達段階に応じた造形指導ができるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育所保育指針の内容や造形指導に関する事項を演習を通して理解する。 ・表現及び鑑賞の発達段階や幼児期の個性的表現を理解する。 ・表現及び鑑賞の経験から知識・技能、発想・構想力を養う。 ・保育の造形指導にふさわしい教材や指導方法を研究することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス（自分の図工や美術の歩み）		テキストを使用し、これからの学習の目標、方法、計画を知る		
2	子どもの描画理解－発達段階を知る－		自分の図工や美術の歩みを振り返り、子どもの表現について考え、ふさわしい言葉がけの方法を話し合う。発達段階を理解し理解し、適切な描画材料について考える		
3	表紙からはじまる世界①		造形ノートの表紙を目的をもったデザインとしてアイデアスケッチする		
4	表紙からはじまる世界②		アイデアスケッチをもとに身近な材料を工夫して使い、自己のイメージを表現する		
5	表紙からはじまる世界③		制作		
6	表紙からはじまる世界④		完成後は互いの作品を鑑賞し、良い点などを言葉で表現する		
7	紙芝居DE自己紹介①		課題を理解して、アイデアスケッチを描く		
8	紙芝居DE自己紹介②		技法や仕掛けなど表現方法を工夫して、制作をすすめる		
9	紙芝居DE自己紹介③		伝えたい内容を明確に表現できているか確認しながら制作を進める		
10	紙芝居DE自己紹介④		制作した紙芝居で自己紹介をし、互いの発表を鑑賞し、それぞれの良い点を言葉で表現する		
11	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー①		モダンテクニクの技法理解とその演習		
12	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー②		モダンテクニクの演習作品とその名称、技法内容を指導資料としてまとめ、応用の方法、発達段階に応じた指導方法について研究する		
13	絵の具で遊ぼうーモダンテクニクー③		モダンテクニクの技法を用いて自由な発想で制作を行う		
14	きみもアーティストーモダンテクニクー④		制作を通して発達段階に応じたモダンテクニクの活用についてまとめる		
15	造形ノートのまとめ		ワークシートや表現課題を「造形ノート」に視覚的にわかりやすくまとめ、自己評価表を記入する		
【成績評価の方法と基準】					
演習作品70点、授業への取り組み(関心・意欲・態度)や造形ノート(学習内容の記録・考察・鑑賞)30点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満 D					
【テキスト】					
北沢昌代・畠山智宏・中村光絵(著)『子どもの造形表現 第3版 ーワークシートで学ぶー』開成出版、2024					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2024					
【備 考】					
事前に必要な用具や準備物を連絡するので忘れないように注意する。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	総合表現Ⅰ	担 当	渡邊 繁治		
【授業の概要】					
指導者による実演を鑑賞したり作品を制作して実演したりすることによって、表現することの楽しさを知るとともに、保育の現場での活用方法や効果的な表現方法について考える。演じるために必要な準備や態度、技術を教授する。 幼稚園でのパネルシアター公演を企画・開催することによって、表現することの楽しさや子ども達との関わり方を実際に体感する。					
【授業の到達目標】					
・パネルシアターのパネルボードや絵人形制作の方法や手順を知り、制作する。 ・パネルシアターの実演を通して、効果的な表現力や技術を体得する。 ・幼稚園での公演を通して、子ども達とのコミュニケーションを楽しみ、子ども達の反応や喜びを実際に味わう。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	児童文化とは(講話と実演鑑賞)		パネルシアターの鑑賞。授業の内容や到達目標及び評価基準について説明する		
2	パネルシアター:基礎講座		パネルシアターの歴史や基礎的な内容の講話を行う		
3	パネルシアター:絵人形の制作①		課題作品の鑑賞。 課題作品の中から選んだ作品をグループごとに制作する(下描き)		
4	パネルシアター:絵人形の制作②		課題作品のグループ制作を行う(色塗り)		
5	パネルシアター:絵人形の制作③		課題作品のグループ制作を行う(色塗り)		
6	パネルシアター:絵人形の制作④		課題作品のグループ制作を行う(アウトライン)		
7	パネルシアター:実演練習①		課題作品のグループ制作を行う(アウトライン、しかけ)		
8	パネルシアター:実演練習②		舞台の設置や実演準備について知り、グループごとに実演練習をし、基本的な演じ方について知る		
9	パネルシアター:実演練習③		グループごとに実演練習をする		
10	パネルシアター:発表会(クラス内)		グループごとにクラス内で発表会を行う		
11	えのくま幼稚園児対象公演に向けての話し合いと公演練習		公演の会場作りや公演内容などの打ち合わせをし、グループ練習を行う		
12	えのくま幼稚園公演にむけての練習		パネルシアター公演に向けての練習を行う		
13	えのくま幼稚園公演①		パネルシアター公演を実施する		
14	えのくま幼稚園公演②		パネルシアター公演を実施する		
15	えのくま幼稚園公演の振り返りと前期のまとめ		パネルシアター公演の振り返りレポートを書き、前期のまとめを行う		
【成績評価の方法と基準】					
授業への取り組み(関心・意欲・態度)40点、発表会での発表や態度20点、制作課題20点、学びのついでレポート20点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満					
【テキスト】					
松家まきこ(著)『0歳から楽しめるふわふわタオルあそび』学研					
【参考書】					
古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子(著)『実習に役立つパネルシアターハンドブック』萌文書林					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽Ⅰ	担 当	渡 邊 砂 子		
【授業の概要】					
音楽の基礎知識を学び、リズム表現や創作活動を通して、保育者に求められる音楽表現技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められる音楽の基礎知識を理解する。 ・子どもの情操を育み感性を豊かにするため、歌唱表現を工夫することができる。 ・音楽を創作する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	楽譜のしくみや読み方		楽譜上の記号等の名称や意味、音符と鍵盤の関係 ト音・ヘ音譜表の理解と階名唱		
2	いろいろなリズムと拍子		いろいろな音符や休符のリズム表現と拍子の理解		
3	リズム表現		ボディパーカッションとボイスアンサンブル		
4	歌唱表現の基礎		声の仕組みと発声法		
5	子どもの歌の歌唱		楽譜の理解と歌唱表現の工夫「かもつれっしゃ」		
6	子どもの歌の歌唱		楽譜の理解と歌唱表現の工夫「おかあさん」「ふしぎなポケット」		
7	音階と調		いろいろな音階と移調の理解「きらきら星」		
8	和音と伴奏		主要三和音の伴奏の工夫		
9	言葉のリズムとメロディ		オノマトペの言葉のリズムを生かした簡単なメロディづくり		
10	オリジナルソング創作①		「子どもの歌」の歌詞とメロディづくり		
11	オリジナルソング創作②		「子どもの歌」の歌詞とメロディづくり		
12	オリジナルソング創作③		「子どもの歌」の歌詞とメロディづくり		
13	オリジナルソング創作④		「子どもの歌」の伴奏づくり		
14	オリジナルソング創作⑤		「子どもの歌」の発表		
15	まとめ		基礎知識の確認		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の基礎知識の理解及び実技発表、作品の提出等70点、授業態度30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
今川恭子・志民一成・木村充子他(編著)『おんがくのしくみー歌って動いてつくってわかる音楽理論ー』 教育芸術社、2014 荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』圭文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂 ポケットいっぱいのうた』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅰ	担 当	渡邊 砂子	米田 昌子	田北 嘉奈子 安部 千鶴 永見響子
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキスト教材を使った個人授業を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏技術と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・子どもの表情や動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ハ長調の音階		大譜表、音部記号、拍子記号、音名と鍵盤の関係の理解		
2	1番		音階の運指と流れ、全音・半音の理解		
3	2番 「かえるのがっしょう」		左手和音ⅠとⅤ ₇ の形を覚える 4分音符と4分休符		
4	22番 「手をたたきましよう」		右手♪♪のリズム 分散和音の形		
5	22番 「かたつむり」		左手の4分音符と4分休符 付点のリズム		
6	51番 「きらきら星」		タイ、付点のリズム Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ ₇ の和音の形		
7	51番 「きらきら星」		スラーとレガート 移調奏(ニ長調、ヘ長調)		
8	18番 「チューリップ」		左手分散和音の形 移調奏(ハ長調、ニ長調)		
9	53番 「大きなくりの木の下で」		6/8の流れるような旋律 Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ ₇ の和音とコードネーム		
10	58番 「Good Morning」		高い音、低い音の読譜とポジションの移動 アウフタクト(弱起)の曲		
11	56番 「むすんでひらいて」		隣り合った音の粒を揃える メゾピアノとメゾフォルテ		
12	69番 「森のくまさん」		臨時記号と半音階 アウフタクト(弱起)の曲		
13	68番 「かもつれっしゃ」		音の強弱(クレッシェンド、デクレッシェンド) 前奏の表現の工夫とフェルマータ		
14	69番 「きらきら星」、「チューリップ」の移調奏		試験の課題曲を中心に前期学んだ内容を振り返る		
15	前学期の課題の復習・まとめ		課題曲で行う実技試験 夏季休業中の課題		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 パイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	1年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	乳児保育Ⅰ	担 当	田中 洋		
【授業の概要】					
子どもの人格発達における基礎は乳幼児期の物的・人的環境に大きく影響をうける。このような子どもを取り巻く環境は、子どもの人格発達を促すうえで欠くべからざるものと考えられており、「発達環境」と呼ばれている。この授業では、乳幼児期の発達とそれを促す「発達環境」について、保育および保育士の役割、業務、専門性と関連させながら学ぶことを目的とする。あわせて、保育所以外の機関における取り組みにもふれ、乳児保育の現状と課題について理解する。					
【授業の到達目標】					
・乳幼児期の発達過程および子どもを取り巻く環境(発達環境)が与える影響について理解する。 ・保育所および保育士の役割、業務および専門性について理解する。 ・乳児保育における発達支援および保護者支援とは何か、そのあり方について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳児保育の意義・目的		乳児保育の定義およびその社会的役割について		
2	乳児保育の歴史と現状		乳児保育の歴史および現状(社会背景)		
3	乳児保育に関わる様々な法律		児童福祉法ならびに育児・介護休業法等について		
4	「保育所保育指針」の目的と内容		「保育所保育指針」の目的・内容について		
5	乳児保育のポイント①「ねらい」と「内容」		「保育所保育指針」にみる保育所の役割について		
6	乳児保育のポイント②「視点」と「領域」		保育の「ねらい」及び「内容」の示し方について		
7	人生の基礎としての乳児期		ポルトマンの「生理的早産」と人間発達の独自性について		
8	乳児のこころの発達① 基礎		人間発達の基本的理解について		
9	乳児のこころの発達② 愛着		身近な人(主に母親)との絆をはぐくむ過程について		
10	乳児のこころの発達		思いを伝えあう手段を獲得する過程について		
11	乳児のからだの発達		体の発達と運動機能の発達について		
12	乳児保育における複数担任制		同僚性と保育者間の連携のあり方について		
13	保育所における1日の生活の流れ		0・1・2歳児のデイリープログラムについて		
14	保護者との連携		保護者との関係性の構築と協働について		
15	発達の遅れに向き合う		発達の診断と早期対応について		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、レポート20点、受講姿勢10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
志村聡子(編著)『はじめて学ぶ乳児保育 第四版』同文書院、2025 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省(編)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018					
【備 考】					
・『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を自分なりのペースで読み込み、理解する。 ・復習に力を入れて、学習したことを常に確認する。 ・クラスやグループで意見交換や関連資料の提示を活発に行い、学びを共有し合う。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅰ	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 保育所に保育士並びに所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育所及び保育所以外の児童福祉施設での実習を円滑に進めるため、その役割や機能、実習の心構え等について学び、保育実習ⅠA(保育所)・ⅠB(施設)に備えさせる。					
【授業の到達目標】					
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導をとおして、実習の総括と自己評価を行い次年度の実習課題を明らかにする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保 施	保育実習の目的と概要	実習の意義や目的、実習の流れや内容、保育士養成課程における保育実習の位置づけ		
2	施	実習施設の種別と実習内容①	乳児院、児童養護施設等の役割と機能についての調べ学習と情報の共有		
3	保	保育所実習の目的と内容、保育のマナー、手遊びについて	保育所実習の目的、実習の流れや内容について、実習生の一日、保育現場でのマナー、手遊びの意義や方法等		
4	保	保育所の仕事理解、実習日誌について①	保育施設の一日の生活の流れ、実習日誌の記録の視点		
5	施	実習施設の種別と実習内容②	乳児院、児童養護施設等の役割と機能についての調べ学習と情報の共有		
6	保	子ども理解について、実習日誌について②、電話のかけ方	保育所の生活や遊びをとおしての子ども理解、実習日誌の記録の考察・省察について、実習園への依頼電話のかけ方		
7	施	施設で暮らす子どもへの対応①	事例をとおした子ども理解とその対応についての検討		
8	保	関係法令について、絵本の読み聞かせについて	保育士に関わる法令のポイント確認、絵本の読み聞かせの意義や方法等		
9	施	施設で暮らす子どもへの対応②	事例をとおした子ども理解とその対応についての検討		
10	保	部分保育について、指導案作成について	実習における部分保育の位置づけと意義、指導案作成の意義と、作成する手順や書き方、対象年齢にあった絵本の選定		
11	施	保育実習中の出来事への対応	トラブルへの対応と実習生の心構え		
12	保	手遊び発表練習、プロフィールについて	手遊び試験にむけての発表練習、プロフィールの書き方		
13	施	施設実習の自己課題	保育実習の自己課題の立て方と課題解決のための方策の検討		
14	保	手遊び試験①、読み聞かせ指導案作成	前学期に習得した手遊びの試験、保育実践(手遊び・読み聞かせ)の指導案作成		
15	施	プロフィールの作成	プロフィールの作成に係る目標設定		
【成績評価の方法と基準】					
課題提出・配布資料の整理70点、受講態度30点、通年で評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜(編著)『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規、2020 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	英語 I	担 当	瀬口 珠美		
【授業の概要】					
以下の活動を通して、外国語学習の基礎力を育成するとともに表現力を身につける。					
1. 基本文法の確認、問題演習					
2. 発音練習、音読練習、英作文、発表					
3. テキスト通読、語句の確認、概要把握、音読練習、問題ノート					
【授業の到達目標】					
・基礎的な英文法を理解し、平易な語句・構文を用いて、自分の考えや伝えたいことを表現する努力を通じて保育現場に必要なコミュニケーション能力を高める。					
・映画を通じて自然な英語表現や異文化に触れ、保育に欠かせない多様な価値観への興味関心を深めることで、公平・公正さを身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	オリエンテーション		授業の進め方、グループワーク&プレゼンテーション、課題について説明		
2	1 Avantgardy		本文理解(グループ学習・発表)		
3	2 Ameriacn Football		本文理解(グループ学習・発表)		
4	3 Market in Okinawa		本文理解(グループ学習・発表)		
5	基礎文法確認		動詞、be動詞、助動詞、5文型		
6	5 Tahe Hakobe Ekiden		本文理解(グループ学習・発表)		
7	6 The Haka and the All Blacks		本文理解(グループ学習・発表)		
8	7 Kawamura Yuki		本文理解(グループ学習・発表)		
9	6 Kiwi, Icon of New Zealand / 7 Ishikawa Yuki		本文理解(グループ学習・発表)		
10	特集 News Watcher		単語確認、Discussion		
11	1 & 2		Review		
12	3 & 4		Review		
13	5 & 6		Review		
14	7 & News Watcher		Review		
15	まとめ		授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、授業時の活動への参加状況や受講姿勢20点、課題への取り組み20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。					
評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜島書店編集部(編)『Watching Light 2024-2025』浜島書店					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保健体育 I	担 当	工藤 冴		
【授業の概要】					
自己の健康について考えさせるとともに、健康を維持・増進するために必要な運動やストレスの対処法、怪我をした際の応急手当について、基本的な知識を教授する。					
【授業の到達目標】					
・自分自身の身体や健康について理解する。 ・運動の必要性や方法を理解し、積極的に運動をするようになる。 ・応急手当の方法を理解し、事故が起きた際に対処できるようになる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業内容について、自分自身の運動習慣について考える		
2	健康な生活とは		健康の定義、健康な生活習慣とは		
3	生活習慣病と関連する要因		生活習慣病とは、生活習慣の予防法		
4	体力とは何か		体力の定義、子どもの時期に行うとよい運動		
5	幼児期の運動について①		幼稚園を訪問し、幼児期に適した運動や用具の使い方について考える		
6	おもちゃ作り①		子どもの運動能力を考えて楽しく遊べるおもちゃを制作する		
7	おもちゃ作り②		子どもの運動能力を考えて楽しく遊べるおもちゃを制作する		
8	運動のしくみ		骨や筋などのしくみについて		
9	運動と水分補給の関係		体温調節のしくみや熱中症について		
10	応急手当とは		応急手当の基本		
11	心肺蘇生法		心肺蘇生の手順や方法について		
12	健康を維持・増進するための運動		有酸素運動やダイエットについて		
13	幼児期の運動について②		幼稚園を訪問し、幼児期の運動と心の関係について考える		
14	ストレスへの対処法		ストレスについて、ストレスの対処法について		
15	まとめ		スポーツを身近に考える、まとめ		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、受講姿勢・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
出村慎一(監)『健康・スポーツ科学講義 第2版』杏林書院、2019					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 前期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(実技)
科目名	保健体育Ⅱ	担 当	工藤 冴		
【授業の概要】					
様々な運動をととして、身体を動かす事の楽しさや心地よさを体験し、日頃から進んで運動を行うようになるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・自分の身体のことを知る。 ・自分の身体をしっかりと動かし、運動することの楽しさや心地よさを感じることができる。 ・グループで協力して考え、積極的に動くことができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業についての説明、ストレッチ、マッサージ		
2	物を使わない運動、こどもたいそう		まねっこ遊び、じゃんけんゲーム、どうぶつたいそうなど		
3	えのくま幼稚園園児との触れ合い①		えのくま幼稚園園児と遊ぶ		
4	ボールやフラフープを使った運動		手つなぎサッカー、フラフープリレーなど		
5	マットや縄跳びを使った運動		前転、後転、前跳びなど		
6	ダンスの基本動作、個人でダンスを考える		幼児が出来るようなダンスの基本的な動きを知る、課題曲のダンスを考える		
7	個人でダンスを考える、発表する		課題曲のダンスを考える、発表する		
8	グループでダンスを考える①		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
9	グループでダンスを考える②		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
10	グループでダンスを考える③		グループでダンスの振り付けの相談、練習		
11	ダンスの発表		各グループで考えたダンスの発表		
12	えのくま幼稚園園児との触れ合い②		えのくま幼稚園園児と遊ぶ		
13	屋外での運動①		土手を走る		
14	屋外での運動②		なわとび、おにごっこなど		
15	屋外での運動③		だるまさんがころんだ、しっぽとりなど		
【成績評価の方法と基準】					
技術50点、受講態度・提出物50点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
特になし					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
実技授業のため、原則見学はできません。体調管理をしっかり行ってください。また、体操服・運動靴・筆記用具を準備してください。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭福祉	担 当	川野 義人 (実務経験者)		
			児童養護施設の所属長として勤務		
【授業の概要】					
子ども家庭福祉の歩みや現状・課題を知り、保育士としての役割を考える。					
【授業の到達目標】					
保育士に求められている役割を自覚し、子どもの意見を尊重し、その最善の利益を優先した日々の支援を心掛けるとともに保護者をはじめとする地域の人々や他職種と連携した子育て・子育て支援ができる保育士の養成を目指す。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子ども家庭福祉の理念と概念		子どもの権利条約の成立、子どもの最善の利益		
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向		諸外国の歴史的変遷や動向、子育ての担い手の変化		
3	子どもの人権擁護		子どもの権利条約批准と日本の法改正の現状		
4	子ども家庭福祉の制度と実施体制		児童福祉法及び関連法律の制定・改正と実施機関の変化		
5	子ども家庭福祉の施設と専門職		他機関・他職種との連携の必要性和保育士の役割・倫理		
6	少子化と地域子育て支援		少子化対策の変遷、新しい子育て支援制度の現状と課題		
7	母子保健と子どもの健全育成		妊娠から学童期までの支援体制、今後の課題		
8	多様な保育ニーズへの対応		多様な保育ニーズに対応する仕組み、障害児支援の現状		
9	子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその予防		現状の理解、防止の取り組み、保育士に求められる対応		
10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応		子どもの貧困の現状、外国籍の子どもと家庭への対応		
11	社会的養護		児童福祉法改正と社会的養育ビジョンの課題		
12	障がいのある子どもへの対応		障がい児支援の変遷、配慮された子育て支援		
13	少年非行等への対応		非行専門施設の歴史や現状、育ち直しの支援の意味		
14	次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進		次世代育成支援対策推進等の子育て支援制度		
15	地域における連携・協働とネットワーク		家庭や地域住民・他の専門機関との連携・協働の仕方		
【成績評価の方法と基準】					
後期定期考査60点、小論文15点、ジェノグラム・エコマップ・ノート15点、ノートの整理10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A、70点以上80点未満:B、60点以上70点未満:C、60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)新保幸男・小林理(編)『新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉 第2版』中央法規、2023					
【参考書】					
ミネルヴァ書房編集部(編)『社会福祉小六法2025』ミネルヴァ書房、2025					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	社会的養護Ⅰ	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
社会的養護の理念、歴史的変遷、社会的養護の基本について理解するとともに、社会的養護の制度や法体系等について学び、社会的養護に関わる専門職としての基本的知識と技術の習得を図る。					
【授業の到達目標】					
・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	社会的養護の理念と概念		社会的養護の基本理念と原理、基盤づくり		
2	社会的養護の歴史的変遷		欧米や日本における社会的養護の歴史的変遷		
3	子どもの人権擁護と社会的養護		社会的養護における子どもの人権擁護と課題		
4	社会的養護の基本原則		児童福祉法の改正と家庭養育の優先すべき理由		
5	社会的養護における保育士等の倫理と責務		対人支援における倫理とその必要性、職員の責務、職業倫理		
6	社会的養護の制度と法体系		社会的養護に関する関連法規		
7	社会的養護のしくみと実施体系		社会的養護の基本的なしくみ、「措置」の変更、延長、解除		
8	社会的養護とファミリーソーシャルワーク		ソーシャルワークの意義、プロセスと展開		
9	社会的養護の対象と支援のあり方		措置(代替養育)に至る理由や予防的支援、代替養育の対象と支援、措置解除後の支援		
10	家庭養護と施設養護		施設養護の現状、里親制度、ファミリーホームの現状と課題、施設養護と家庭養護との相違点		
11	社会的養護に関わる専門職		社会的養護に求められる専門性、児童福祉施設における他職種との連携		
12	社会的養護に関する社会的状況		現代社会における養護問題、社会的養護体制の現状と課題		
13	施設等の運営管理の現状と課題		施設運営に関わる内容と費用のしくみや在り方		
14	被措置児童等の虐待防止の現状と課題		被措置児童等虐待の現状の理解とその発生要因、課題		
15	社会的養護の地域福祉の現状と課題		児童福祉施設の地域支援、地域貢献の在り方、地域福祉		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題レポート40点、受講態度10点の100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)相澤仁・林浩康(編)『新基本保育シリーズ⑥ 第2版 社会的養護Ⅰ』中央法規、2019					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育の心理学	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
心身の発達や学びの過程について心理学的知見を中心に説明する。心理学の知識と保育場面での事例とを関連づけながら、子どもへの関わり方や保育環境などを考えられるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・保育者として必要な心身の発達に関わる心理学の知識を学び、子どもや保育に対する理解を深める。 ・乳幼児期の学びの過程や特性を知り、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの発達を理解することの意義		発達と個人差、アセスメントと子ども理解		
2	子どもを取り巻く環境と発達		子どもを取り巻く環境、発達を規定する要因		
3	環境としての保育者と子どもへの影響		人的環境としての保育者、保育者の役割と専門性		
4	発達理論と子ども観		発達原理、発達理論(ピアジェ、エリクソン)、子ども観		
5	子どもの知覚の発達		子どもの知覚特性、感覚機能の発達		
6	子どもの身体・運動発達		身体・運動発達の特徴、粗大運動・微細運動の発達		
7	愛着の形成と発達		愛着関係の発達、愛着形成の方法・援助		
8	子どもの情緒・欲求の発達		情緒の発達、欲求の発達		
9	社会情動的発達		自己意識の発達、社会情動的スキルの発達		
10	子どもの言語・コミュニケーションの発達		乳幼児期のコミュニケーション、言語の発達		
11	子どもの認知発達		認知発達、記憶の発達		
12	子どもの学びに関わる理論		学習の定義、条件づけ学習、問題解決学習、観察学習		
13	学びの動機づけ		動機づけとは、外発的動機づけ、内発的動機づけ		
14	乳幼児期の学びの過程と特性		主体的に学ぶことの重要性、遊びの分類と発達		
15	乳幼児期の学びを支える保育		子どもを取り巻く現状と課題、課題に応じた保育		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、提出物・受講姿勢40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
瀧口綾・福田真奈(編著)『保育士を育てる①保育の心理学』一藝社、2020					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(環境Ⅰ)	担 当	久保田 貴子 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭及び園長として勤務		
【授業の概要】					
養護及び教育を一体的に行うことを特性とする保育所保育で育みたい資質・能力は、保育活動全体で培われることを理解した上で、領域「環境」の視点から、発達過程における保育内容や保育者の行う環境の構成や援助について具体的な事例を通して学びを深める。					
【授業の到達目標】					
・領域「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて理解する。 ・身近な環境と子どもとの具体的な姿から、様々な環境の意義について理解する。 ・子どもが環境とかかわる具体的な保育場面での保育者の役割を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児期の教育の基本①		幼児期にふさわしい教育、育みたい資質・能力、保育内容		
2	幼児期の教育の基本②		保育者の役割、領域「環境」のねらい・内容・内容の取扱い		
3	乳幼児の育ちと領域「環境」		乳幼児期の発達と環境との関わり、養護と教育の一体性		
4	園児との芋ほり①		環境の構成・保育者としてのかかわりについて		
5	園児との芋ほり②		子ども理解と援助・省察・まとめ		
6	自然環境への関わり①		自然体験、身近な自然素材との関わりの意味、環境構成や援助		
7	自然環境への関わり②		植物や生き物との関わりを通しての育ち、環境の構成や援助		
8	ものや道具との関わり①		遊具、身近なものとの関わりの意味や学び、保育者の援助		
9	ものや道具との関わり②		発達に応じたものや道具、保育者の援助		
10	子どもの遊びを考える① グループワーク		教材研究、環境の構成、援助の在り方		
11	子どもの遊びを考える② グループワーク		グループごとに発表、意見交換		
12	文字や標識、数量や図形への関心①		標識や文字等への関心・感覚を育む環境構成や援助		
13	文字や標識、数量や図形への関心②		数量・図形等への関心・感覚を育む環境構成や援助		
14	遊びや生活の情報への興味、地域への親しみ		身近な情報、異年齢児との交流、地域・日本文化との触れ合い		
15	まとめ		授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、受講姿勢・グループワークの取り組み・提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)福元真由美(編者代表)『事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子ども達が、周りの草花や生き物・いろいろな物や出来事・人などに、どのようにかかわったり関心をもったりしているでしょうか。意識して見ようとするといろいろな姿が見えて来ますよ。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(言葉Ⅰ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
講義や演習を通して、領域「言葉」のねらいや内容、子どもの発達、保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・領域「言葉」のねらい、内容、他領域との関係について理解する。 ・乳幼児が言葉を獲得していく道筋と、それにかかわる保育者の役割について理解する。 ・素話について、声の出し方や幼児に対する話し方などを知り、表現の技術を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	幼児教育の基本と領域「言葉」		教育・保育の基本と領域「言葉」		
2	領域「言葉」のねらいと内容①		領域「言葉」のねらい及び内容 乳児、1歳以上3歳未満児		
3	領域「言葉」のねらいと内容②		領域「言葉」のねらい及び内容 3歳以上児		
4	領域「言葉」と他領域との関係／素話①		領域「言葉」の考え方と総合的な指導／素話について		
5	領域「言葉」における評価／素話②		発達と評価の観点／素話題材選び		
6	子どもの発達と言葉①		言葉のもつ意義と機能		
7	子どもの発達と言葉②		子どもの言葉の発達		
8	子どもの発達と言葉③／素話③		言葉の発達と人とのかかわり／素話グループ発表、意見交換		
9	子どもの言葉と保育の実際①		言葉を育む保育者の役割と援助		
10	子どもの言葉と保育の実際②		子どもの生活と言葉、子どもの遊びと言葉		
11	子どもの言葉と保育の実際③／素話④		「聞く」「話す」ことを通した体験／素話グループ発表、意見交換		
12	子どもの言葉と保育の実際④		書き言葉が伝える世界		
13	言葉の発達が気になる子ども		幼児音、吃音、場面緘黙		
14	素話⑤		素話発表		
15	素話⑥／まとめ		素話発表、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、表現技術20点、提出物・受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅰ	担 当	渡邊 砂子		
【授業の概要】					
自然で美しい発声による歌唱表現のための基礎的な知識・技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者として自然な声の出し方や歌い方を身に付ける。 ・童謡やわらべ歌、唱歌等をとおして、曲のよさや特徴を生かした歌い方の工夫及び伴奏の工夫をすることができる。 ・アンサンブル曲をとおして歌唱法や指揮法について学ぶ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	歌唱表現の基礎①		自然で無理のない美しい声の出し方		
2	歌唱表現の基礎②		正しい音程の取り方「ドレミの歌」他		
3	歌唱表現の基礎③		いろいろな拍子や諸記号を生かした旋律の歌い方		
4	アンサンブルの工夫①		二重唱や三重唱の歌い方の工夫 「もみじ」「ふるさと」他		
5	アンサンブルの工夫②		合唱の歌い方の工夫・指揮の仕方		
6	アンサンブルの工夫③		合唱の歌い方の工夫・指揮の仕方		
7	アンサンブルの工夫④		合唱の歌い方の工夫・指揮の仕方		
8	アンサンブルの工夫⑤		合唱の歌い方の工夫・指揮の仕方		
9	子どもの歌の歌唱①		歌詞やリズムの特徴を生かした歌唱表現「森のくまさん」		
10	子どもの歌の歌唱②		歌詞やリズムの特徴を生かした歌唱表現「夕やけこやけ」「雪」		
11	子どもの歌の歌唱③		歌詞やリズムの特徴を生かした歌唱表現「世界中の子どもたちが」		
12	弾き歌い表現の工夫①		曲の特徴を生かした歌唱表現と伴奏の工夫		
13	弾き歌い表現の工夫②		曲の特徴を生かした歌唱表現と伴奏の工夫		
14	弾き歌い表現の工夫③		曲の特徴を生かした歌唱表現と伴奏の工夫		
15	まとめ		実技の振り返りとまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の基礎知識の理解及び実技発表等70点、授業態度30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』圭文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱい うた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅱ	担 当	田北 嘉奈子		
【授業の概要】					
リトミックの体験とさまざまな楽器を使って豊かな音楽表現が出来るように教授する。					
【授業の到達目標】					
乳幼児の音楽表現活動の楽しさを理解し、乳幼児の発達に即したリトミックによる身体表現活動や楽器遊びの指導ができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳幼児の音楽指導の歴史		ダルクローズのリトミックを理解する		
2	保育におけるリトミック教育について①		リトミックの基礎を体験する		
3	保育におけるリトミック教育について②		リトミックの基礎を体験する		
4	保育におけるリトミック教育について③		リトミックの基礎を体験する		
5	さまざまな楽器で表現活動①		さまざまな楽器の使い方を理解する		
6	さまざまな楽器で表現活動②		さまざまな楽器の使い方を理解する		
7	さまざまな楽器で表現活動③		さまざまな楽器を使い合奏を体験する		
8	さまざまな楽器で表現活動④		さまざまな楽器を使い合奏を体験する		
9	さまざまな楽器で表現活動⑤		さまざまな楽器を使い合奏を体験する		
10	保育におけるリトミック教育について④		リトミックの基礎を体験する		
11	保育におけるリトミック教育について⑤		リトミックで使うピアノ演奏の練習と指導案を作る		
12	保育におけるリトミック教育について⑥		リトミックで使うピアノ演奏の練習と指導案を作る		
13	リトミックを取り入れた音楽あそびの発表①		グループごとに発表する		
14	リトミックを取り入れた音楽あそびの発表②		グループごとに発表する		
15	音楽表現についての理解とまとめ		音楽表現について復習し理解を深める		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査80点、提出物・レポート10点、受講態度10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
八木正一(監)竹内貞一(編)『保育者養成のための音楽表現』大学図書出版、2020					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	総合表現Ⅱ	担 当	渡邊 繁治		
【授業の概要】					
指導者による実演を鑑賞したり作品を制作して実演したりすることによって、表現することの楽しさを知るとともに、タオルあそびやパネルシアターの発表を通して、保育の現場での活用方法や効果的な表現方法について考える。 また演じるために必要な準備や態度、技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・タオルあそびの活用法を理解し、幼児を想定してオリジナルのタオルあそびを考案する。 ・ミニパネルシアターやブラックシアターの絵人形制作の方法や手順を知り、制作する。 ・タオルあそびやパネルシアターの発表を通して、子ども達に寄り添う温かな気持ちを培い、保育における効果的な表現力や技術力を習得する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	タオルあそびの実演を通して幼稚園での活用について知る		タオルあそびを体験しながら幼稚園での活用などについて知る		
2	タオルあそびの実演		テキストを活用して、グループでやってみたいタオルあそびを選んで実施練習をする		
3	タオルあそびの実演とクラス内発表		テキストを活用して、グループごとに練習したタオルあそびを発表する		
4	タオルあそびの創作①		グループごとにオリジナルのタオルあそびを創作する		
5	タオルあそびの創作②		グループごとにオリジナルのタオルあそびを創作する		
6	タオルあそびのクラス内発表に向けての練習と準備		オリジナルのタオルあそびを発表するための練習や準備を行う		
7	タオルあそびクラス内発表		オリジナルタオルあそびの発表をグループごとに行う		
8	観賞とミニパネルボードの制作		ミニパネルシアターの鑑賞を行い、各自ミニパネルボードを制作する		
9	ミニパネルシアター:絵人形の制作		カラー印刷済みのミニパネルシアター『キャベツの中から』の絵人形を制作する		
10	ミニパネルシアター:絵人形の制作と実演練習		カラー印刷済みのミニパネルシアター『キャベツの中から』の絵人形を完成させ、各自、実演練習を行う		
11	ミニパネルシアター:実演練習とグループ内発表		各自、実演練習を行い、グループ内で発表する		
12	ブラックシアター鑑賞と制作方法		講師によるブラックシアター『どんな花火』を観賞し、制作の方法や演じ方について知る		
13	ブラックシアター『どんな花火』の制作①		『どんな花火』のオリジナルの花火を制作する		
14	ブラックシアター『どんな花火』の制作②		『どんな花火』のオリジナルの花火を制作する		
15	ブラックシアターの発表と鑑賞 1年間のまとめ		『どんな花火』のオリジナル作品を発表し、ブラックシアター鑑賞1年間を振り返り、まとめを行う		
【成績評価の方法と基準】					
授業への取り組み(関心・意欲・態度)40点、公演や発表会での発表や態度20点、制作課題20点、学びのについてのレポート20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
松家まきこ(著)『0歳から楽しめる ふわふわタオルあそび』学研、2019					
【参考書】					
古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子(著)『実習に役立つパネルシアターハンドブック』萌文書林、2009					
【備 考】					

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅱ	担 当	渡邊 砂子 米田 昌子 田北 嘉奈子	安部 千鶴 永見響子	
【授業の概要】					
テキスト教材を使った個人授業を行い、保育者に求められるピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏技術と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・子どもの表情や動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	へ長調の音階 「きらきら星」「チューリップ」の移調奏		音階の流れと運指(シト) 前学期学んだ移調奏の復習		
2	27番 「きらきら星」「ぶんぶんぶん」(12ページ)		へ長調の和音Ⅰ、Ⅴの形 強弱を生かした歌い方		
3	32番 「虫の声」		左手分散和音の形 擬音(オノマトペ)を生かした歌い方		
4	31番 「ちょうちょう」		へ長調の和音Ⅰ、Ⅳの形 ハ長調の旋律Ⅰ-Ⅴ-Ⅰの分散和音の進行		
5	59番 「ちょうちょう」		シンコペーションとフレーズを生かした弾き方 移調奏(二長調)		
6	59番 「たなばたさま」		へ長調の音階の復習 前奏の左手オクターブの跳躍		
7	59番 「朝のうた」		ドルチェとレガート奏 付点8分音符と複付点4分音符		
8	79番 「おかえりのうた」		3連符の理解とレガート奏 付点8分音符と付点4分音符		
9	79番 「おかえりのうた」		主旋律を生かした左手の分散和音 8vaの理解と付点音符		
10	84番 「おべんとう」		アウフタクト(弱起)と付点のリズムを生かして弾く 付点8分音符と8分音符		
11	84番 「まつぼっくり」		スタッカートとスタカティッシモ、左手ポジションの速やかな移動 8分休符を生かした歌い方		
12	98番 「まつぼっくり」		8分音符の和音の伴奏を正確な連打で演奏する リタルダンドの終わり方		
13	98番 「アイアイ」		a-b-a'の曲の形式の理解 歌詞(掛け合い)を生かした歌い方		
14	96番、95番 「アイアイ」		試験の課題曲を中心に後期学んだ内容の振り返り		
15	後期の課題の復習・まとめ		後期の試験を行う 次年度へ向けての課題		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	乳児保育Ⅱ	担 当	田中 洋		
【授業の概要】					
乳児保育の基本は安心・安定した保育者と乳児の人間関係を基礎とし、ゆったりした環境、じっくりとした取り組みによって進められることを理解する。その上に立って、本授業では、0・1・2歳児の年齢ごとの生活の流れや保育環境、援助の実際および健康・安全と情緒の安定等への配慮について理解し、具体的な指導計画・個別計画と評価について学習を深めることを目的とする。					
【授業の到達目標】					
・乳児の発達過程を理解し、安心・安定した環境の中で乳児に寄り添える保育力を養う基礎をつくる。 ・保育所保育の特性である養護と教育の一体性や5領域につながる「3つの視点」について理解する。 ・実践事例を通して、保育計画と実際との関係について理解する。 ・保護者との連携、職種間の協働の重要性について学ぶ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳児とのふれあいの基本を学ぶ		だっこのしかた、おんぶのしかた		
2	乳児の衣服の基礎知識		衣服の特徴と扱い方		
3	衣服の着せ方、脱がせ方		着替えの配慮のポイントを学ぶ		
4	おむつ替えと「おむつはずれ」		おむつ替えの基本		
5	授乳のしかたとその準備		調乳のしかた、授乳のしかたの基本		
6	離乳食の基礎知識		離乳の基本的考え方と介助		
7	沐浴のしかたと清拭のしかた		乳児のからだを清潔に保つためには		
8	保育環境の衛生管理		子どもの生活の場を清潔に保つには		
9	かみつき・ひっかきへの対応		トラブルの背景と保護者との連携		
10	乳児保育における安全管理①		乳児突然死症候群(SIDS)について		
11	乳児保育における安全管理②		安全保育と安全能力の育成		
12	乳児保育における安全管理③		保育環境の整備と保育技術としての管理		
13	「気になる子」への対応①		発達に遅れや「こまり」を抱える子どもへの対応		
14	「気になる子」への対応②		保育者間の連携と協働		
15	保護者との連携と協働		保育者と保護者との関係性について		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、レポート20点、受講姿勢10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
志村聡子(編著)『はじめて学ぶ乳児保育 第四版』同文書院、2025 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
内閣府・文部科学省・厚生労働省(編)『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館、2018					
【備 考】					
・『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を自分なりのペースで読み込み、理解する。 ・復習に力を入れて、学習したことを常に確認する。 ・クラスやグループで意見交換や関連資料の提示を活発に行い、学びを共有し合う。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅰ	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子		
			佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者)		
			保育所に保育士並びに所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育所及び保育所以外の児童福祉施設での実習を円滑に進めるため、その役割や機能、実習の心構え等について学び、保育実習ⅠA(保育所)・ⅠB(施設)に備えさせる。					
【授業の到達目標】					
・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導をととして、実習の総括と自己評価を行い次年度の実習課題を明らかにする。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	保 施	後学期授業計画について、えのくま幼稚園での保育観察について、絵本の読み聞かせ指導案		後学期授業計画について、えのくま幼稚園における保育観察概要説明、保育実践(手遊び・読み聞かせ)の指導案修正	
17	保 施	えのくま幼稚園での保育観察及び振り返り		えのくま幼稚園における保育観察、振り返りグループワーク	
18	保	プロフィール清書、保育実践(手遊び・読み聞かせ)指導案清書、保育実践にむけての練習		プロフィール清書完成、保育実践(手遊び・読み聞かせ)の指導案完成、保育実践にむけての練習	
19	施	実習日誌の書き方①		実習記録の目的、書き方、配慮点、記録の仕方、考察、省察、等	
20	保 施	保育実践(手遊び・絵本の読み聞かせ)グループ練習①		保育実践にむけ(手遊び・絵本の読み聞かせ)2グループに分かれての練習、感想や改善点を省察	
21	保 施	保育実践(手遊び・絵本の読み聞かせ)グループ練習②		同上	
22	保 施	保育実践(手遊び・絵本の読み聞かせ)①		手遊び、絵本の読み聞かせの実践、感想や改善点を省察	
23	保 施	保育実践(手遊び・絵本の読み聞かせ)② 保育のマナーとコミュニケーションについて		同上 基本的スキルと保育実践の心構えについて確認	
24	保	実習日誌作成練習、事前オリエンテーションについて		DVD視聴し、子どもの姿から実習日誌記録作成、オリエンテーションの目的、依頼電話のかけ方確認	
25	施	実習日誌の書き方②		考察の書き方の検討	
26	保	事前オリエンテーション書類準備		オリエンテーションの持参書類(プロフィール、誓約書、評価票等、準備する書類)の準備	
27	施	事前オリエンテーション書類準備		オリエンテーションの持参書類(プロフィール、誓約書、評価票等、準備する書類)の準備	
28	保	手遊び試験②、実習日誌の作成、実習に向けての心得、礼状の書き方		後学期に習得した手遊びの試験、実習日誌のファイルの作成、実習に向けての心得確認、礼状の書き方	
29	施	実習日誌の書き方③ 実習の心得		実習日誌の記入例における注意点、実習の心得についての周知	
30	保 施	事後指導		評価票面接、今後の自己課題の明確化	
【成績評価の方法と基準】					
課題提出・配布資料の整理70点、受講態度30点、通年で評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜(編著)『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規、2020 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習ⅠA(保育所)	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴 保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		

【授業の概要】

各自が希望した保育園(所)での実習(観察・参加実習を主としながら部分実習もある)を10日間行う。子どもと生活しながら授業で学んだ保育の知識や技術の体験的な理解、及び観察を通しての子ども理解を深める。

【授業の到達目標】

- ・保育所の役割や機能を具体的に理解する。
- ・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
- ・既習の教科目の内容を踏まえ、保育及び保護者への支援について総合的に理解を深める。
- ・保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
- ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

【授業の計画】	【内 容】
○各自の希望する保育園(所)で実習を行う。 ○実習期間は10日間 令和8年2月13日(金)～2月25日(水)	1 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開 2 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解・援助や関わり 3 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4 保育の計画・観察・記録・省察 5 専門職としての保育士の役割と職業倫理

【成績評価の方法と基準】

実習園の評価70点、実習日誌・感想文等の提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。

【テキスト】

【参考書】

大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜(編著)『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規、2020
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018

【備 考】

実習は乳幼児と共に過ごしながらその本質に触れる貴重な機会なので、意欲的・主体的に取り組む学びを深めましょう。社会人としてのマナー等基本的スキルを発揮し、取り組みましょう。

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	専門科目	必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習ⅠB(施設)	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴 保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		

【授業の概要】

保育所以外の児童福祉施設で10日間実習を実施する。施設の社会的役割や機能、利用者の生活と一日の流れを理解し、支援の実践を学ぶ。また、自己課題を明確にする。気づいたことや疑問に感じたことなどについて、その背景や要因を考察し、記録する。一日の終わりには省察し、翌日の実習に生かす。

【授業の到達目標】

- ・保育所以外の児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
- ・観察や子どもとの関わりをとおして子どもへの理解を深める。
- ・既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育や保護者への支援について総合的に理解する。
- ・保育の計画・観察・記録および自己評価等について具体的に理解する。
- ・施設保育士の業務内容や職業倫理について、具体的に理解する。

【授業の計画】	【内 容】
① 実習期間 令和8年3月2日(月)～令和8年3月14日(土) ② 実習場所 ・児童養護施設 ・障害児入所施設 ・乳児院 ・母子生活支援施設 ・児童発達支援センター ・生活介護施設 等	1 施設の役割と機能 ① 施設における子どもの生活と保育士の援助や役割 ② 地域における施設の役割と機能 2 子ども理解 ① 子どもの観察とその記録 ② 個々の状態に応じた援助や関わり 3 施設における子どもの生活と環境 ① 計画に基づく活動や援助 ② 子どもの心身の状態に応じた生活と対応 ③ 子どもの活動と環境 ④ 健康管理、安全対策の理解 4 計画と記録 ① 支援計画の理解と活用 ② 記録に基づく省察・自己評価 5 保育士の役割と倫理 ① 保育士の業務内容 ② 職員間の役割分担や連携 ③ 保育士の職業倫理

【成績評価の方法と基準】

実習施設の評価70点、実習日誌・感想文・指導案等30点の100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。
 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。

【テキスト】

【参考書】

大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜(編著)『学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規、2020
 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018

【備 考】

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	教養科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	英語Ⅱ	担 当	瀬口 珠美		
【授業の概要】					
以下の活動を通して、外国語学習の基礎力を育成するとともに表現力を身につける。 1. 基本文法の確認、問題演習 2. 発音練習、音読練習、英作文、発表 3. テキスト通読、語句の確認、概要把握、音読練習、問題ノート					
【授業の到達目標】					
・基礎的な英文法を理解し、平易な語句・構文を用いて、自分の考えや伝えたいことを表現する努力を通じて保育現場に必要なコミュニケーション能力を高める。 ・映画を通じて自然な英語表現や異文化に触れ、保育に欠かせない多様な価値観への興味関心を深めることで、公平・公正さを身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	基礎文法復習		動詞、be動詞、助動詞、5文型		
2	8 The Peaceful Sloth		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
3	9 Unique Music Band, Gominzoku		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
4	10 The World Loves Anime		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
5	11 Protecting Toki		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
6	12 Remote but Close: Brazil and Japan		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
7	13 Food Banks and Food Drives		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
8	14 Offshore Wind Farms in Denmark		本文理解(グループ学習・発表)、要約		
9	Travelling in Australia		読解		
10	Travelling in Australia		Discussion		
11	8&9		Review		
12	10&11		Review		
13	12&13		Review		
14	14&Traveling in Australia		Review		
15	まとめ		授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、授業時の活動への参加状況や受講姿勢20点、課題への取り組み20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
浜島書店編集部(編)『Watching Light 2024-2025』浜島書店					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	1年 後期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	国語教養	担 当	富成 碩甫		
【授業の概要】					
(1) 保育専門職として必要な文章を読み解く能力を養う。 (2) 保育専門職として必要な文章を書く能力を養う。 (3) 保育専門職として必要な話す・聞く能力を養う。 (4) 保育専門職として必要な知識・教養を身に付けさせる。					
【授業の到達目標】					
(1) 保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を身に付けることを目標とする。 (2) 保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を実践する力を養うことを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	書くことを見つける		発想の仕方を身に付け、書くことを楽しめるようにする		
2	文章の基本的な型		文章の基本的な型としての四段構成による文章の読み方書き方を理解する		
3	まとめ方の位置による文章の分類		意見・主張の位置による文章のまとめ方(頭括型・尾括型・双括型)を理解する		
4	文章を書く技術①		絵本・詩(詞)等の例を考えながら、起承転結(四段構成)の文章の運び方を理解する		
5	文章を書く技術②		起承転結で文章を書く (1) 文例を書き写す(2) 課題テーマで作文を書く		
6	文章を書く技術③		伝わりやすい文章を書くルールを理解する		
7	文章を書く技術④		伝わりやすい文章を書くルールを理解する		
8	文章を書く技術⑤		伝わりやすい文章を書くルールを理解する		
9	文章を書く技術⑥		レポート・小論文の書き方を理解する		
10	文章を書く技術⑦		レポートを書く		
11	文章を書く技術⑧		小論文(第1段階)を書く		
12	敬語の使い方①		敬語の基本を理解する		
13	敬語の使い方②		敬語の使い方に習熟する		
14	実用的な文章の書き方		手紙・公用文・ビジネスメールの書き方を理解する 手紙・公用文・ビジネスメールを書く		
15	名文音読		児童文学作品の音読に習熟する(宮沢賢治・あまんきみこ・豊島与志雄の作品等)		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査(講義内容についての筆記試験70点、作文30点)により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
講師作成による教材プリント					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭支援の心理学	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
生涯発達(人の誕生から死に至るまでの心身の構造・機能に生じる変化)や子どもの精神保健について心理学的知見を中心に説明する。また、子育て家庭についても、発達の特徴や時代的背景などを包括的にとらえられる視点が持てるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能、子育て家庭をめぐる現代社会の社会状況と課題を理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	乳幼児期から学童期前期の発達		乳幼児期とは、学童期前期とは		
2	学童期後期から青年期の発達		学童期後期とは、青年期とは		
3	成人期・老年期の発達		成人期とは、老年期とは		
4	生涯発達の視点		初期経験の重要性、発達の理論と原理		
5	家族・家庭の機能の変容		家族・家庭とは何か、家族・家庭機能の変容		
6	子育てを取り巻く社会的状況		社会的問題、子育て支援		
7	現代の家庭における人間関係		家庭における人間関係の特徴、家庭内のコミュニケーション		
8	親になるということ		親になる過程、親としての悩み		
9	ワーク・ライフ・バランスと子育て		男女共同参画社会とは、ワーク・ライフ・バランスとは		
10	多様な家庭環境と子どもの育ち		現代の家庭環境の状況、孤立する子育て家庭		
11	特別な支援を必要とする家庭		ひとり親家庭、発達に課題をもつ子ども		
12	地域社会における家庭支援		地域社会における家庭支援、家庭支援を担う保育者の専門性		
13	子どもの生活環境と育ちへの影響		養育環境の変化、家庭という居場所		
14	子どもの発育と発達		子どもの身体発育と発達、乳幼児期に多い身体疾患		
15	子どもの心の健康と課題		子どもの心身症、子どもの精神疾患、児童虐待、発達障害		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、提出物・受講態度40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
藤田久美・瀧口綾(編著)『保育士を育てる②子ども家庭支援の心理学』一藝社、2020					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル、2018 瀧口綾・福田真奈(編著)『保育士を育てる①保育の心理学』一藝社、2020					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	臨床心理学	担 当	長谷川 美枝子 (実務経験者)		
			児童養護施設、心療内科等で心理職として勤務		
【授業の概要】					
臨床心理学と精神医学との関係、アセスメントの理論、臨床的検査の理論、臨床心理学的援助法、問題行動のある子どもや気になる子ども・保護者への理解と対応、保育者自身の成長について教授する。					
【授業の到達目標】					
子どもや保護者が心にトラブルを抱えたとき、保育者として心理学的アプローチで援助・対応し、解決へと導くことができるよう、臨床心理学的理論や臨床心理学的アセスメントを理解し、臨床心理学的スキル・実践方法を習得することを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	第1章 臨床心理学とは		①心理学・臨床心理学の成り立ちと歴史 ②臨床心理学と精神医学との関係 ③臨床心理学とは		
2	第2章 生涯発達における一般的な心の発達の様相①		①乳児期 ②幼児期 ③児童期		
3	第2章 生涯発達における一般的な心の発達の様相②		④青年期 ⑤青年期 ⑥成人期以降		
4	第3章 気になる子どもの支援①		①ストローク ②気になる子どもの親との関わり		
5	第3章 気になる子どもの支援②		③情緒の発達課題と保育者の援助 ④子ども理解の意味と方法		
6	第3章 気になる子どもの支援③		⑤神経発達症群の種類と程度 ⑥気になる子どもとの関わり		
7	第3章 気になる子どもの支援④		⑦母親への支援 ⑧母親の抱える5つのストレス		
8	第4章 かかわりの技法①		①かかわりの技法 ②カウンセリングマインド		
9	第4章 かかわりの技法②		③来談者中心療法 ④カウンセラーの3条件		
10	第4章 かかわりの技法③		⑤臨床心理学的理論		
11	第4章 かかわりの技法④		⑥心理検査 ⑦臨床心理学的アセスメント		
12	第5章 保育者の成長①		①アサーション ②DESC法 ③アサーションの実際		
13	第5章 保育者の成長②		④正確な理解 ⑤質問への応答		
14	第5章 保育者の成長③		⑥質問への応答の実際		
15	第5章 保育者の成長④		⑦人間関係の中の自分 ⑧認知の歪み		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題の提出30点、演習への積極的取組20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 判定は、評価点80点以上を A、70点以上80点未満を B、60点以上70点未満を C、60点未満を D とする。					
【テキスト】					
配付資料					
【参考書】					
随時提示する					
【備 考】					

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの食と栄養	担 当	谷野 真弓		
【授業の概要】					
子どもの食と栄養は、心身の健やかな発達や食生活、食習慣を形成し、生涯にわたる健康の基礎へとつながる重要な役割をもつ。健全な食生活の意義や栄養に関する基本的知識、子どもの発育・発達と食生活の関係について解説し、理解を深めさせる。					
【授業の到達目標】					
・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を理解する。 ・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの健康と食生活の意義①		子どもの心身の健康と食生活		
2	子どもの健康と食生活の意義②		子どもの食生活の現状と課題、朝食欠食についての考察		
3	栄養の基本①		栄養とは、食べ物のゆくえ		
4	栄養の基本②		栄養の摂り方、子どもの栄養の特徴		
5	栄養素の種類と働き①		炭水化物・脂質の種類と働き		
6	栄養素の種類と働き②		タンパク質・ミネラルの種類と働き		
7	栄養素の種類と働き③		ビタミンの種類と働き、水分代謝		
8	日本人の食生活の目標		日本人の食事摂取基準(2025年版)、食事バランスガイドによる食生活自己診断		
9	献立作成・調理の基本		献立作成の基本、1日分の献立作成		
10	乳児期の授乳の意義と食生活①		乳児期の栄養・食生活の特徴		
11	乳児期の授乳の意義と食生活②		母乳栄養、人工栄養、混合栄養、母乳育児の留意点		
12	乳児期の離乳の意義と食生活①		離乳の定義と必要性、離乳食の進め方①		
13	乳児期の離乳の意義と食生活②		離乳食の進め方②、離乳期の食生活の問題と対応		
14	幼児期の心身の発達と食生活①		幼児期の成長と発達、幼児期の栄養		
15	幼児期の心身の発達と食生活②		幼児期の食の問題と気になる食行動		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、授業態度25点、課題15点により評価する。前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)堤ちはる・藤澤由美子(編)『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』中央法規、2019					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容総論	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士並びに所長として勤務		
【授業の概要】					
主体的かつ意欲的に学べるように演習ワークを取り入れ、学生同士の意見交換を通して保育の楽しさや奥深さを体験できるようにする。さらに、保育者として必要な基礎知識を習得し、自ら考え、保育の全体的な構造を理解するとともに、保育実践構想力を高めていく。					
【授業の到達目標】					
・「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。 ・保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ・保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 ・保育の多様な展開について具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「保育内容総論」とは何か -保育の構想と循環性-		5領域が相互に関連しあい総合的に展開される保育の営みの理解		
2	保育内容の歴史的変遷		保育内容や保育制度の歴史的変遷を概観、「領域」の変遷		
3	保育所保育指針の法的根拠・改定の経緯		保育指針の改善事項、全体的計画の意義・実施、評価・改善		
4	子どもと保育内容 -子ども理解-		子どもの心の奥を探り、よりよく理解する保育者のあり方		
5	子どもの発達と生活		子どもの生活を支え、育ちを援助する保育者のあり方		
6	子どもを取り巻く環境や子どもの遊び		様々な魅力的な環境に関わることから生まれる遊びの充実		
7	「健康」と保育内容		乳幼児期の子どもにふさわしい「健康」の保育内容		
8	「環境」「人間関係」と保育内容		子どもの人間関係を支え、環境を構成する保育者の役割		
9	「言葉」「表現」と保育内容		「言葉」「表現」のねらいと内容について理解する		
10	保育者の専門性、保育内容の総合的展開		専門性6項目について、保育の総合的展開・養護と教育の一体性		
11	育みたい資質・能力、「10の姿」		保育内容と保育の目指す方向性		
12	保育者の役割 -気になる子どもの支援-		具体的な事例をもとに考え合う		
13	保育者の役割 -保護者との連携-		どのような配慮が必要か考え合う		
14	保育者の役割 -幼保小連携-		保育者の役割について考え合う		
15	保育者の役割 -家庭・地域・関係機関との連携-		連携の意義と保育者の役割		
【成績評価の方法と基準】					
定期考査70点、課題の提出15点、授業への積極的な取り組み15点により評価する。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:Dとする。					
【テキスト】					
酒井幸子・守巧(編)神長美津子他(著)『演習 保育内容総論 あなたならどうしますか?』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(人間関係Ⅱ)	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
「自立心を育て、人と関わる力の基礎を培う」ための保育士の援助や関わりについて理解を深める。また、具体的な保育実践を想定した指導計画作成・省察・評価等をグループワークを通して学び合うことにより保育構想力の向上をはかる。					
【授業の到達目標】					
・領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 ・個と集団の育ち、自立心・協同性・道徳性の芽生え等の視点から、人と関わる力の基礎を培う援助のあり方を理解する。 ・具体的な保育場면을想定した指導計画の作成、実践・省察・評価・改善の実践について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	人との関わりに関する領域「人間関係」①		3歳未満児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
2	人との関わりに関する領域「人間関係」②		3歳以上児のねらいや内容、内容の取扱いの理解		
3	個と集団の育ち 全体への目配りと個との関わり		集団で遊ぶ楽しさ、協働性を育む保育		
4	愛着関係の形成について		人との関わりの基盤と愛着関係形成の重要性についての理解		
5	協同性の育ち		協同性とはどのような姿か、保育者の援助の在り方について事例(DVD)を視聴しながら学ぶ		
6	自立心の育ち		自立心と依存、自立心を育む保育のあり方の理解		
7	道徳性・規範意識の育ち		「道徳性の芽生え」の理解と保育者の関わりの重要性		
8	指導計画作成① グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成①		
9	指導計画作成② グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成②		
10	指導計画作成③ グループワーク		「ルールのある遊び」の保育指導案作成③		
11	指導計画に基づくグループごとの保育実践①		実践・省察・評価・改善①		
12	指導計画に基づくグループごとの保育実践②		実践・省察・評価・改善②		
13	指導計画に基づくグループごとの保育実践③		実践・省察・評価・改善③		
14	現代社会と人との関わり①		ICTと幼児期の人間関係、親の生き方の変化と親子の関わりについて		
15	現代社会と人との関わり②		人との豊かな関わりを育む乳幼児期の保育・教育のあり方		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査70点、提出物10点、積極的な受講姿勢20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)岩立京子(編者)『事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子どもの発達や遊びの状況などに関心をもち、情報の収集に努めましょう。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(言葉Ⅱ)	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子どもの言葉の発達過程を理解させるとともに、領域「言葉」の指導の具体的内容や方法、保育者の役割等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・子どもを取り巻く言葉の世界について理解する。 ・乳幼児の言葉の発達を育むための望ましい指導方法を身につける。 ・実践を通し、表現力や創造力を育てる方法を身につける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	言葉を育てる児童文化財①		保育における児童文化財の活用、オリジナル絵本づくりについて		
2	言葉を育てる児童文化財②		子どもが楽しむ絵本、絵本を紹介する技術		
3	言葉を育てる児童文化財③		指導計画と指導の実際、言葉遊び		
4	保育活動と言葉①		保育者の言葉、指導案検討		
5	保育活動と言葉②		言葉かけを中心としての援助と関わり、指導案検討		
6	オリジナル絵本づくり①		絵本づくり①		
7	オリジナル絵本づくり②		絵本づくり②		
8	オリジナル絵本づくり③		絵本づくり③		
9	オリジナル絵本づくり④		絵本づくり④		
10	オリジナル絵本づくり⑤		絵本づくり⑤		
11	指導案による部分実習の実践①		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善①		
12	指導案による部分実習の実践②		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善②		
13	指導案による部分実習の実践③		指導案に基づく実践、意見交換、指導案改善③		
14	子どもの生活と言葉①		自分の考えや思いを伝える言葉		
15	子どもの生活と言葉②、まとめ		感情体験と言葉、オリジナル絵本発表、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、作品・課題提出25点、実践・受講姿勢25点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
数中征世・玉瀬友美・星野美穂子(編)『新版 保育内容・言葉 -乳幼児のことばを育む-』教育出版、2017 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育内容(環境Ⅱ)	担 当	久保田 貴子 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭及び園長として勤務		
【授業の概要】					
領域「環境」に関わる保育場면을想定し、指導計画の作成、環境の構成、省察・評価・改善等について、グループワークを通じた協働的な学びあいの中で理解を深め、保育構想力の向上をはかる。					
【授業の到達目標】					
・ 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 ・ 「環境」のねらい及び内容と他領域との関連、遊びを通じた総合的保育の展開について理解する。 ・ 具体的保育場면을想定し、環境の構成・教材や遊具等の活用と工夫、計画・実践・省察・評価の実際について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「幼児教育の基本」について		「環境を通して行う保育」「養護と教育の一体性」についての理解		
2	「思考力の芽生え」について		「好奇心や探究心をもって環境に関わる力を培う」意味と重要性		
3	具体的な保育を想定した指導計画		指導案の形式、書き方についての理解		
4	保育(コマづくり、砂遊び、新聞紙遊び)の構想		グループワーク(物的環境の準備や活動の流れについて)		
5	保育場면을想定した具体的な保育の流れについて		グループワーク(主体的な遊びへの導入の工夫や援助)		
6	指導案作成		グループワーク(ねらいや内容の設定、指導案を書く)		
7	グループごとの指導案の発表と改善①		グループごとの指導案の発表、意見交換、指導案改善①		
8	グループごとの指導案の発表と改善②		グループごとの指導案の発表、意見交換、指導案改善②		
9	グループごとの指導案の発表と改善③		グループごとの指導案の発表、意見交換、指導案改善③		
10	指導案の作成・改善		意見交換を通しての学びをもとに、各自指導案を作成		
11	現代の保育の課題と領域「環境」①		子どもの体験不足や環境問題、保育・教育の課題		
12	現代の保育の課題と領域「環境」②		グループごとのテーマ設定、討議、まとめ		
13	現代の保育の課題と領域「環境」③		グループごとに発表、意見交換		
14	現代の保育の課題と領域「環境」④		子どもの遊びと学びの環境を豊かに作り出す実践に学ぶ		
15	まとめ		授業のまとめ、振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査60点、受講姿勢・グループワークの取り組み・提出物40点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
無藤隆(監)福元真由美(編者代表)『事例で学ぶ保育内容(領域)環境』萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
随時指示する					
【備 考】					
乳幼児期の子どもを取り巻く環境の変化や遊びの状況に関する文献や新聞記事等に関心を持ち、情報の収集に努めましょう。					

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽Ⅱ	担 当	渡 邊 砂 子		
【授業の概要】					
音楽や歌唱の基礎技術を学び、保育者に求められる音楽表現技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められる音楽の基礎知識を理解する。 ・子どもの豊かな音楽表現のため、リズム表現や歌唱表現を工夫することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	和音と伴奏①		主要三和音の転回形といろいろな伴奏型		
2	和音と伴奏②		いろいろな調への移調		
3	和音と伴奏③		コードネームによる伴奏		
4	リズム表現①		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
5	リズム表現②		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
6	リズム表現③		クラッピング(手拍子)によるアンサンブル		
7	子どもの歌の歌唱表現の工夫①		子どもの歌の楽譜の理解と歌い方「にじ」		
8	子どもの歌の歌唱表現の工夫②		子どもの歌の楽譜の理解と歌い方「思い出のアルバム」		
9	子どもの歌の歌唱表現の工夫③		子どもの歌の楽譜の理解と歌い方「小さな世界」		
10	合唱表現の工夫①		歌詞の意味を生かした表現の工夫「花は咲く」		
11	合唱表現の工夫②		歌詞の意味を生かした表現の工夫 ”		
12	合唱表現の工夫③		歌詞の意味を生かした表現の工夫 ”		
13	合唱表現の工夫④		歌詞の意味を生かした表現の工夫 ”		
14	合唱表現の工夫⑤		歌詞の意味を生かした表現の工夫 ”		
15	まとめ		授業の振り返りとまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
授業中の基礎知識の理解及び実技発表等70点、授業態度30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』主文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	造形表現Ⅱ	担 当	工藤 祐子		
【授業の概要】					
ワークシートによる演習をとおして、造形表現の指導に必要な資質や能力を身に付けさせる。また、子どもの描画理解を深めさせ、発達段階に応じた造形指導ができるよう教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育所保育指針の内容や造形指導に関する事項を演習を通して理解する。 ・表現及び鑑賞の発達段階及び幼児期の個性的表現を理解する。 ・表現及び鑑賞の経験から知識・技能、発想・構想力を養う。 ・保育の造形指導にふさわしい教材や指導方法を研究することができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		授業内容を知る		
2	色と構成で表そう感情やイメージ①		色のイメージを理解し、言葉から浮かぶ色をトータルカラーを用い表現する		
3	色と構成で表そう感情やイメージ②		色のイメージを理解し、様々な感情を表現する		
4	色と構成で表そう感情やイメージ③		色のイメージを理解し、画面構成に配置の良さに気づく		
5	なんでも版画ーコラグラフ版画①		版画について知る 表したいイメージを考える		
6	なんでも版画ーコラグラフ版画②		版をつくる 台紙にいろいろなものを貼る		
7	なんでも版画ーコラグラフ版画③		版を作り終え、ニスを塗る		
8	なんでも版画ーコラグラフ版画④		版画用インクを塗って刷り紙に刷る お互いに鑑賞し、良い点を文章で表す		
9	お弁当を作ろう①		各粘土の特性を知る アイデアスケッチを描き、紙粘土でパーツを作る		
10	お弁当を作ろう②		紙粘土でパーツを作る		
11	お弁当を作ろう③		紙粘土でパーツを作り、お弁当に詰める		
12	お弁当を作ろう④		お弁当を完成させ、作品を写真撮影し、お互いの作品を鑑賞する		
13	Happyポップアップカードの制作①		飛び出す仕組みを理解し、構想を練り、制作する		
14	Happyポップアップカードの制作②		完成したカードをみんなで鑑賞しお互いの作品の良さを味わう		
15	造形ノートのまとめ		課題ごとに造形ノートにまとめ、自己評価票を記入する		
【成績評価の方法と基準】					
演習作品70点、授業への取り組み(関心、意欲、態度)や「造形ノート」(授業での演習作品の評価、学習内容の記録、考察、鑑賞)30点により評価する。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満 D					
【テキスト】					
北沢 昌代・畠山 智宏・中村 光絵(著)『子どもの造形表現 第2版 ーワークシートで学ぶー』開成出版、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
事前に必要な用具や準備物を連絡するので忘れないように注意する。					

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	身体表現Ⅰ	担 当	工藤 冨		
【授業の概要】					
自分が感じたままに身体全体を使って表現し、仲間の表現に共感でき、保育者としての視点をもつことが出来るよう教授する。また、仲間同士で考えを出し合い、工夫して表現ができるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・感じたことを恥ずかしがらずに表現できるようになる。 ・仲間の表現を受け止め、共感できるようになる。 ・コミュニケーションをとりながら、考えを出し合ったりまとめたりすることができる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ガイダンス		ガイダンス、ストレッチ、ふれあい遊び		
2	手遊びや歌遊びから身体表現		手遊びや歌遊びを身体全体で表現する		
3	絵本や身近なものを使って表現		絵本や新聞紙などを使って表現する		
4	身近なものや音、日常生活を表現		動物の動きや風の音、生活を表現する		
5	こどもたいそう		こどもたいそうを踊る		
6	えのくま幼稚園園児とのふれあい		園児とのふれあいをとおして身体で表現することの大切さや楽しさを知る		
7	おもちゃ作り①		子ども達が楽しめるおもちゃをグループで考えて作る		
8	おもちゃ作り②		子ども達が楽しめるおもちゃをグループで考えて作る		
9	おもちゃ作り③		子ども達が楽しめるおもちゃをグループで考えて作る		
10	グループで身体表現できる保育内容を考える		グループ分け、保育内容決め		
11	グループで子ども達への伝え方を考える①		子ども達にどのように伝えたらよいか話し合う		
12	グループで子ども達への伝え方を考える②		子ども達にどのように伝えたらよいか話し合う		
13	グループごとに考えたものを他のグループに教える		身体表現活動の模擬保育		
14	えのくま幼稚園園児と一緒に表現活動		園児と一緒に表現活動を楽しむ		
15	全体での反省		それぞれのグループについて全体で反省する		
【成績評価の方法と基準】					
技術50点、受講姿勢・提出物50点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
特になし					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
実技授業のため、原則見学はできません。体調管理をしっかり行ってください。また、体操服・運動靴・筆記用具を準備してください。					

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅲ	担 当	渡邊 砂子 米田 昌子 安部 千鶴 永見 響子		
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキスト教材を使った個人授業を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・1年次に学んだ内容を基礎に保育者に求められるピアノの演奏形態と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・マーチやスキップなど、子どもの動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	ト長調の音階 「うみ」		音階の流れと運指(ファ#) 情景を思い浮かべて歌う		
2	33番 「うみ」		ト長調の和音Ⅰ、Ⅴの形 曲の山を意識して歌う		
3	36番 「おつかいありさん」		ト長調の和音Ⅴを使った3拍子の分散和音 付点のリズムとスタッカート		
4	36番 「とんぼのめがね」		左手の分散和音の形 1部形式の曲、盛り上がりを感じて歌う		
5	46番 「とんぼのめがね」		主旋律の右手と左手の入れ替わり 両手の伴奏と歌の旋律		
6	65番 「どんぐりころころ」		主旋律の右手と左手の入れ替わり お話をするように歌う		
7	67番 「春が来た」		フレーズの山とドルチェの弾き方 情景を思い浮かべて歌う		
8	67番 「思い出のアルバム」		流れるような6拍子のメロディ 安定した左手の伴奏		
9	70番 「思い出のアルバム」		1拍の中に入る8分音符と16分音符 一年の季節や情景を思い浮かべて歌う		
10	71番 「大きな古時計」		いろいろな16分音符のリズム アウフタクト(弱起)の曲		
11	72番 「大きな古時計」		付点8分音符、左手保持音 時計の刻みを感じて		
12	72番 「手のひらを太陽に」		右手の付点8分音符と左手の保持音 付点8分音符と8分音符の違い		
13	103番 「手のひらを太陽に」		メヌエットについて 臨時記号や強弱記号を生かした弾き方		
14	103番 弾き歌い曲		試験の課題曲を中心に前期学んだ内容の振り返り		
15	前学期の課題の復習・まとめ		課題曲で行う実技試験		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲で行う実技試験70点、授業時の実技評価及び受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 パイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの健康と安全	担 当	片倉 孝子 (実務経験者)		
			病院に看護師として勤務		
【授業の概要】					
演習・実技・グループワーク等による授業を展開し、子どもの保健に関する知識と技術の実践力の向上を図るとともに、子どもの健康と生命を守る保育者としての責任の自覚及び保育観の形成を教授する。					
【授業の到達目標】					
・ 保育における保健的観点、保育環境、援助について理解する。 ・ 子どもの感染対策と適切な対応を理解する。 ・ 子どものアレルギー対応・事故対応を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における保育環境の援助		保健的観点を踏まえた援助の理解 物的・人的環境についてグループワーク・感染症(コロナ)注意事項		
2	子どもの保健に関する個別対応		子どもの症状の観察ポイントを抽出しグループワーク		
3	保育における衛生管理		子どもの望ましい衛生環境について		
4	保育における事故防止及び安全対策		保育施設での事故対応・ガイドライン		
5	災害への備えと危機管理		災害対策と危機管理・ハザードマップ等も参考		
6	子どもの体調不良・災害時の対応		子どもの特徴・疾患・バイタルサイン等の確認(実技)		
7	救急処置・救急蘇生法		けがへの対応・応急処置(ファーストエイド)(実技)		
8	感染症の集団発生と予防・対応		スタンダードプリコーションの理解(感染防御用具の作製)		
9	保育における保健的対応		個別的対応を要する子どもへの対応・与薬方法		
10	3歳未満児への適切な対応		3歳未満児の特徴と留意点		
11	個別的配慮を必要とする子どもへの対応		慢性疾患・アレルギーのある子どもへの配慮と留意点「エビペン取扱い等」		
12	障害児への対応		障害の理解・医療的ケアの理解		
13	職員間の連携・協働・組織的取り組み		組織内での報告・連絡・相談		
14	保育における保健計画及び評価		子どもの「身長・頭囲・胸囲」の計測(実技)		
15	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携		子育て支援と地域連携・医療的ケア児の支援について		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査80点、授業態度20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松田博雄・金森三枝(編)『新・基本保育シリーズ⑯ 子どもの健康と安全』中央法規、2019					
【参考書】					
『赤ちゃんの最新病気新百科』、『育児の基本辞典』、その他必要に応じ紹介する。					
【備 考】					
コロナ感染状況を踏まえ、グループワークや実技等は状況に応じて実施する。					

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	障害児保育	担 当	大本 良子		
【授業の概要】					
保育現場における特別な配慮の必要な子どもへの理解と対応について、講義や演習、協議等をおして理解させる。 また、家庭や関係機関との連携を図りながら、小学校への就学に向け、保護者と関係機関との連携・協働の必要性について理解を深めさせる。					
【授業の到達目標】					
1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	「障害」の概念と障害児保育の歴史的変遷		「障害」の概念や法制度等の歴史的変遷、障害児保育の課題		
2	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解①		インクルーシブ保育、社会的障壁と合理的配慮		
3	地域社会への参加・包容および合理的配慮の理解②		合理的配慮と障害児保育の基本、関係法令		
4	肢体不自由児の理解と援助①		肢体不自由の概念、臨床像、起因疾患、心理特性、肢体不自由児の保育におけるねらい		
5	肢体不自由児の理解と援助②		肢体不自由の実態把握の視点、他機関との連携、肢体不自由児を取りまく教育の動向		
6	知的障害児の理解と援助①		知的障害の原因や障害の状態、特性、援助		
7	知的障害児の理解と援助②		知的障害のある子どもの特性		
8	知的障害児の理解と援助③		知的障害のある子どもの支援と関係機関との連携の必要性		
9	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助①		視覚・聴覚障害・言語障害の定義と分類		
10	視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助②		障害の状態や特性の理解、幼児期の主な言語障害と援助		
11	発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD)①		ADHD、LD、ASDの障害の状態や特性、その対応		
12	発達障害児の理解と援助(ADHD、LD、ASD)②		発達障害と二次障害		
13	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助①		重症心身障害児、医療的ケア児への理解と対応		
14	重症心身障害児、医療的ケア児、その他の特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助②		問題行動や愛着障害のある子どもへの支援、代替コミュニケーション		
15	指導計画及び個別の支援計画の作成①		個別の支援計画、指導計画の作成の手順と記載項目、内容		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題提出・配布資料の整理40点、受講態度10点により評価する。前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)西村重稀・水田敏郎(編)『新基本保育シリーズ⑪ 障害児保育』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
特別支援学校の見学を行う予定					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	社会的養護Ⅱ	担 当	安東 和子		
【授業の概要】					
社会的養護を必要としている子どもや家庭への支援について理解を図るとともに、保育士に必要な知識や技術、支援方法等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・社会的養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子どもの権利擁護		子どもの権利擁護の基本とその対応		
2	社会的養護における子どもの理解		社会的養護のもとで生活する子どもや家庭環境についての理解		
3	社会的養護の内容① 日常生活支援		日常生活の特徴に関する理解と支援の在り方		
4	社会的養護の内容② 心理的支援		心理的支援の目的と特徴、事例検討		
5	社会的養護の内容③ 自立支援		事例をととした自立支援の内容、方法		
6	施設養護の生活特性及び実際① 乳児院等		乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設での支援の対象や生活特性への理解		
7	施設養護の生活特性及び実際② 障害児施設等		児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設での支援の対象や生活特性への理解		
8	家庭養護の生活特性及び実際		家庭養護についての基礎知識、養育里親や養子縁組など家庭養護の意義と課題		
9	アセスメントと個別支援計画の作成		自立支援計画作成の手順と内容、自立についての理解		
10	記録および自己評価		社会的養護における記録の意義や役割、ケースカンファレンス		
11	社会的養護における保育の専門性に関わる知識・技術とその実際		社会的養護における日常生活のケア、学習支援等、保育士の実践内容		
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実際		ソーシャルワークの知識や技術と対応方法		
13	社会的養護におけるソーシャルワーク(知識・技術とその応用)		社会的養護で活用するソーシャルワークの技術		
14	社会的養護における家庭支援		家庭支援とアセスメント、今後の課題		
15	今後の社会的養護の課題と展望		社会的養護の新たな課題とその展望		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題レポート40点、受講態度10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)相澤仁・村井美紀・大竹智(編)『新基本保育シリーズ⑩ 社会的養護Ⅱ』中央法規、2019					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)	担 当	沖田 由紀子(実務経験者)		佐藤みつよ(実務経験者)
			保育士並びに保育所長として勤務		幼稚園に教諭として勤務
【授業の概要】					
保育実習Ⅰの経験や学びを活かして、保育所保育の基本、子どもの実態に応じた保育士の援助や環境構成の在り方、立案・実践の方法などを総合的に理解できるようにする。また、実習終了後に本実習を振り返ると同時に、2年間の実習成果と自己課題を認識できるようにしていく。					
【授業の到達目標】					
・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解するとともに、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育実習ⅠAの反省会		保育実習ⅠAの自己課題の明確化、意見交換及び学び合い		
2	保育実習Ⅱの目的と概要、子育て支援について、実習先への電話のかけ方、プロフィール作成		保育実習Ⅱの意義や目的の確認、保育所における子育て支援について調べ確認、実習依頼・オリエンテーション依頼の電話のかけ方、プロフィール作成		
3	実習日誌についての振り返り、プロフィール清書		実習日誌の書き方についての振り返りと再確認、プロフィール清書		
4	実習園事前オリエンテーションに向けて、指導案作成		実習園事前オリエンテーション持参書類準備、部分保育の指導案作成		
5	部分実習の指導案構想 ①		保育計画と実践との関係を再確認しながらの部分保育の構想口頭発表		
6	部分実習の指導案構想 ②		同上		
7	模擬保育実践及び意見交換会 ①		模擬保育の実践、感想や改善点を省察		
8	模擬保育実践及び意見交換会 ②		同上		
9	模擬保育実践及び意見交換会 ③		同上		
10	模擬保育実践及び意見交換会 ④		同上		
11	模擬保育実践及び意見交換会 ⑤		同上		
12	模擬保育実践及び意見交換会 ⑥		同上		
13	模擬保育実践及び意見交換会 ⑦		同上		
14	保育所保育の役割と機能、専門職としての倫理、保育実習Ⅱに向けての心構え、実習日誌作成		保育の目標・保育の方法・保育所の特性・社会的責任・職業倫理等についての確認、保育実習の心構えと準備、実習日誌ファイル作成		
15	保育実習Ⅱの事後指導		実習報告会、自己課題の明確化と卒業までの学習計画		
【成績評価の方法と基準】					
保育実践(手遊び・模擬保育実践等)50点、受講姿勢30点、課題提出(プロフィール・その他の提出物)20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実習指導Ⅲ(施設)	担 当	安東 和子 大本 良子 梶原 礼(実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育実習Ⅰを振り返り、保育実習Ⅲに向けた一人一人の実習への課題を明らかにし、準備させる。また、施設での実習の経験を生かし、福祉援助の内容や方法等について理解を深め、実践力を養う。実習後には、総括と自己評価を行い、施設保育士としての課題や認識を深め、実践力の向上を図る。					
【授業の到達目標】					
・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解するとともに、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導をとおして、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育実習Ⅰの反省会		保育実習Ⅰの実習成果と残された課題について意見交換		
2	保育実習Ⅲ(施設)の意義と目的、実習施設決定		保育実習Ⅲ(施設)の意義や目的の確認、実習施設決定		
3	保育実習Ⅲ(施設)に向けた自己課題		施設保育士の専門性と自己課題について、プロフィール作成指導		
4	実習課題と課題解決①		実習課題と課題解決案についてグループ協議		
5	実習課題と課題解決②		同上		
6	実習日誌の内容の検討・協議①		保育実習ⅠB(施設)のエピソード記録を元にした事例検討		
7	実習日誌の内容の検討・協議②		同上		
8	施設を利用する子どもへの対応①		事例を元にした子ども理解と対応		
9	施設を利用する子どもへの対応②		同上		
10	プロフィール完成、事前オリエンテーションに向けて		プロフィール完成、事前オリエンテーション持参書類準備、実習日誌ファイル作成		
11	部分実習の指導案検討①		指導案の内容発表・意見交換		
12	部分実習の指導案検討②		同上		
13	危機管理		保育事故における注意義務と責任について		
14	保育実習Ⅲ(施設)に向けての心構え		事前オリエンテーションの報告会、施設の特性と職業倫理等について確認、保育実習の心構えと準備		
15	保育実習Ⅲ(施設)の事後指導		実習報告会、保育士としての職責と専門性について、自己課題の明確化と卒業までの学習計画作成		
【成績評価の方法と基準】					
課題提出(指導案・プロフィール・その他の提出物)70点、受講態度20点、配布資料の整理10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習Ⅱ(保育所)	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴 保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
保育実習ⅠA(保育所)での学びを踏まえて保育所で10日間の実習を行う。指導計画に基づいた責任実習を行うことにより保育実践力を高めるとともに、保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理等について理解を深める。					
【授業の到達目標】					
・保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践を通して理解する。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育及び子育て支援について総合的に理解を深める。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価について、実習を通して理解を深める。 ・実習における自己の課題を明確化する。					
【授業の計画】			【内 容】		
○ 各自が希望する保育園(所)で実習する。 ○ 実習期間は10日間 令和7年7月14日(月)～7月25日(金)			○ 保育所の役割や機能の具体的展開 ・養護と教育が一体となって行われる保育 ・保育所の社会的役割と責任 ○ 観察に基づく保育の理解 ・子どもの心身の状態や活動の観察 ・保育士等の援助や関わり ○ 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 ・作成した指導計画に基づく保育の実践と評価 ○ 「環境を通して行う保育」の理解 ・「生活や遊びを通して総合的に行う保育」の理解 ○ 子どもの保育及び保護者への支援と地域社会との連携 ・入所児及び地域の保護者等に対する子育て支援 ・関係機関や地域社会との連携・協働 ○ 多様な保育の展開と保育士業務及び職業倫理の理解 ○ 自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】					
実習園の評価70点、実習日誌・感想文等の提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					
実習は乳幼児と共に過ごしながらその本質に触れる貴重な機会なので、意欲的・主体的に取り組む学びを深めましょう。 社会人としてのマナー等基本的スキルを発揮し、取り組みましょう。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	専門科目	選択必修	2単位 90時間	授業形態(実習)
科目名	保育実習Ⅲ(施設)	担 当	安東 和子 沖田 由紀子(実務経験者) 大本 良子 佐藤 みつよ(実務経験者) 梶原 礼(実務経験者) 工藤 冴 保育士並びに保育所長として勤務 幼稚園に教諭として勤務 幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】 保育所以外の児童福祉施設での保育実習を10日間実施する。保育実習Ⅰを踏まえ、自己の実習課題を明らかにするとともに、地域における施設の役割や機能、保育士の職務内容や職業倫理等、実践をとおして理解する。実習日誌を作成し、実習に係る自己評価と省察に取り組む。					
【授業の到達目標】 ・既習の教科目や保育実習Ⅰを踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について、実践をとおして理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的保護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
① 実習期間 令和7年7月14日(月)～令和7年7月25日(金) ② 実習場所 ・児童養護施設 ・障害児入所施設 ・乳児院 ・母子生活支援施設 ・児童発達支援センター ・生活介護施設 等			1 児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2 施設における支援の実際 ① 受容し、共感する態度 ② 個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)のニーズの把握と子ども理解 ③ 個別支援計画の作成と実践 ④ 子ども(利用者)の家族への支援と対応 ⑤ 各施設における多様な専門職との連携・協働 ⑥ 地域社会との連携・協働 3 保育士の多様な業務と職業倫理 4 保育士としての自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】 実習施設の評価70点、実習日誌・感想文等の提出物30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
【参考書】 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(前期)	専門科目	必修	通年2単位 前期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実践演習	担 当	沖田 由紀子(実務経験者)		
			保育士並びに所長として勤務		
【授業の概要】					
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確化し、保育実践の基礎的な資質・能力を定着させていく。					
【授業の到達目標】					
・保育に関する専門的知識及び技術、責任感、判断力、倫理観、社会性や対人関係能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。。 ・保育実習での体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的資質・能力の定着をはかる。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	学修(実習Ⅰを含む)の振り返りと自己課題		保育実習の成果 履修カルテをもとに自己評価		
2	学修の振り返り 履修カルテに記載		自己課題に向けてのPDCAサイクル及び卒業までの学習計画		
3	子どもを主体とした保育を実践するために①		リズム遊び、わらべうたあそびから育つ力		
4	子どもを主体とした保育を実践するために②		砂・水・泥など可塑性のある素材について		
5	子どもを主体とした保育を実践するために③		紙素材を使った製作遊びについて		
6	子どもの主体性を大切にした環境をとおして行う指導計画案①		年齢や発達に応じた「ねらい」「内容」に基づいた保育計画作成		
7	子どもの主体性を大切にした環境をとおして行う指導計画案②		年齢や発達に応じた「ねらい」「内容」に基づいた保育計画作成		
8	子どもの主体性を大切にした環境をとおして行う指導計画案③		発表・学び合い グループワーク		
9	子どもの内面理解と援助① グループワーク		内面理解に立った援助についての学び合い		
10	子どもの内面理解と援助② グループワーク		内面理解に立った援助についての学び合い		
11	エピソード記録①		遊びの場面のエピソードを書く		
12	エピソード記録②		エピソード記録から考察、学び合い		
13	保育者間の連携について		保育者同士の対話を大切にする ドキュメンテーションについて		
14	自分の「強み」		現在の「私」、自分の良さを知り、保育実践のなかで活かすには		
15	まとめ		保育実習での自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】					
製作やうた、遊び等の保育実践活動50点、グループワーク、発表の積極的取組20点、課題の提出30点により判断する。 前学期、後学期の成績を平均し、通年で評価。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
保育・教職実践演習 野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林					
【備 考】					
将来の保育実践者として、自分自身の課題を意識しながら主体的、協働的に学びましょう。					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 前期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	実践国語教養	担 当	富成 碩甫		
【授業の概要】					
(1) 保育専門職として必要な目的に応じた文章力を養う。 (2) 保育専門職として必要な言葉の用法を身に付けさせる。 (3) 保育専門職として必要な説明能力を養う。 (4) 保育専門職として必要な言葉遊びの力を養う。					
【授業の到達目標】					
(1) 保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を身に付けることを目標とする。 (2) 保育専門職として必要な国語の基本的な知識・技術を実践する力を養うことを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	文章の整え方①		印象に残る書き言葉のルールを学ぶ		
2	文章の整え方②		略語や若者言葉を正しい書き言葉で表現することを学ぶ		
3	文章の整え方③		明快な文章の書き方を学ぶ		
4	文章の整え方④		「主述の呼応」「語順」「係り受け」に留意し、文意が明確に伝わる書き方を学ぶ		
5	文章の整え方⑤		接続詞を使いこなす表現方法を学ぶ		
6	文章の推敲の仕方①		読みやすく誤解されない文章の書き方を学ぶ		
7	文章の推敲の仕方②		読みやすく誤解されない文章の書き方を学ぶ		
8	文章を書く①		絵や写真を見て説明文を書く		
9	文章を書く②		絵や写真を見て説明文を書く		
10	文章を書く③		小論文(第2段階)を書く		
11	文章を書く④		小論文(第2段階)を書く		
12	文章を書く⑤		保育用語を適切に使えるようにする(保育の言葉150)		
13	文章を書く⑥		保育用語を適切に使えるようにする(保育の言葉150)		
14	言葉で遊ぶ		回文・折句・しりとりなどを作って言葉遊びの楽しさを学ぶ		
15	語彙力の養い方		社会人としての基礎力(表現・仮名遣い・送り仮名・フォーマルな書き言葉等)を身に付ける		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査(講義内容についての筆記試験70点、作文30点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
講師作成による教材プリント。					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	教育原理	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
講義や主体的な調べ学習、グループワーク等をとおして、生涯学習の中の幼児期であることを踏まえ質の高い教育・保育の実践者として、教育を学ぶ意味や、教育に対する見方・考え方等について視野を広げ、主体的に学び続けていく資質・能力の育成をはかる。					
【授業の到達目標】					
・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ・教育の思想と歴史的変遷、諸外国の教育制度等、教育に関する基礎的知識を身に付ける。 ・教育実践の基礎について学び、生涯学習の基盤となる幼児教育・保育の現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	教育とは何か		人間形成と教育、 自発的活動の教育的意義、生涯学習体系		
2	生涯学習の中の乳幼児期の教育の特性①		生涯学習と発達課題、幼児の発達と教育、非認知能力について		
3	生涯学習の中の乳幼児期の教育の特性②		エリクソンの発達理論について		
4	教育と福祉との関係性		共通する「保育」の精神、教育内容の共通化、子育て支援の充実		
5	全体的計画の基本①		環境をとおして行う教育について(DVD視聴等)		
6	全体的計画の基本②		幼児期にふさわしい生活とは「信頼関係」「体験」「人との関わり」		
7	遊びを通しての総合的な指導及び援助		遊びこみを通して、諸能力が相互に関連し合い発達する特性		
8	教育・保育の目的、目標・ねらい・内容		教育基本法、学校教育法、教育要領、保育指針		
9	遊びの教育的意義と自発性		遊びの歴史的理解と今日的理解、諸外国の思想と歴史		
10	豊かな遊びと自発性		事例をもとにグループワーク		
11	幼児と環境		環境を通じた教育・保育、DVD視聴からグループワーク		
12	保育の方法と保育計画		保育形態、「子どもの発達の理解」と「保育者の援助」		
13	保育の評価(PDCAサイクル)		評価の視点「子どもの理解」と「援助の改善」		
14	保育者の役割とは		「心のよりどころ」「憧れを形成するモデル」「援助者」「理解者」として		
15	幼児教育の進展		保育者に求められること、 保育の新課題		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、提出物10点、積極的な受講態度20点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
岸井勇雄・無藤隆・湯川秀樹(監)榎沢義彦(編)岸井勇雄・横山文樹他(著)『幼児教育の原理』同文書院、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
佐藤環(監)『資料とアクティブラーニングで学ぶ 初等・幼児教育の原理』(株)萌文書林2022					
【備 考】					

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	社会福祉	担 当	尾上 文恵		
【授業の概要】					
社会福祉の概念や理念、歴史的変遷及び現代的課題といった全体像および各制度における実施機関や専門職等、社会福祉に関する知識について説明し、社会福祉全体における児童家庭福祉の位置づけおよび役割を意識させる。					
【授業の到達目標】					
児童福祉制度が、社会福祉制度全体のなかで、どのような位置づけ・役割を担っているかを理解するとともに、子どもを通じて、その親や家族が必要としている支援について考え、適切な支援につなげていけるよう、各制度や専門職等について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	社会福祉の理念と歴史的変遷		社会福祉の概念、理念 ・歴史的変遷、現代的課題		
2	子ども家庭支援と社会福祉		専門職としての保育士 ・子ども家庭支援の目的、課題		
3	社会福祉の制度と法体系		社会福祉制度の法体系、種類、具体的内容		
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等		社会福祉の行財政、費用負担 ・社会福祉施設		
5	社会福祉の専門職		社会福祉専門職の概要 ・地域における他職種等の連携、協働		
6	社会保障および関連制度の概要		社会保障制度の概要と役割 ・子育て世帯の現状		
7	相談援助の理論		相談援助理論の体系化、発展 ・相談援助理論		
8	相談援助の意義と機能		相談援助の特徴、原則、意義と機能		
9	相談援助の対象と過程		保育における相談援助とその対象、プロセス		
10	相談援助の方法と技術		保育現場における相談援助 ・相談援助の方法と技術		
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ		利用者の権利擁護と苦情解決 ・情報提供と第三者評価		
12	少子高齢化社会における子育て支援		人口動態と少子化の現状、要因 ・少子化対策		
13	共生社会の実現と障害者施策		障害者のとらえ方、現状 ・共生社会の実現に向けて		
14	在宅福祉・地域福祉の推進		地域福祉の概念、方法 ・ニーズ把握 ・連携とネットワーク		
15	諸外国の社会福祉の動向		社会福祉と福祉国家 ・諸外国の社会福祉の歴史と動向		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査80点、提出物・レポート10点、受講態度10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松原康雄・坪洋一・金子充(編)『新・基本保育シリーズ④ 社会福祉 第2版』中央法規、2023					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					
配布するレジュメ・資料(A4サイズ)を綴じるファイルを準備すること					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	子ども家庭支援論	担 当	伊勢 強志		
			児童発達支援センターに所長として勤務		
【授業の概要】					
子どもの育ちや家庭に対する支援を充実させるために、家族・家庭の意義を把握し、子育ての場としての家庭が抱える不安や課題などについて理解をする。また、社会的養護における家庭や保護者への関わり方について理解し、保育士として保護者支援、家庭支援の在り方について考える。					
【授業の到達目標】					
・保育士として様々な家族・家庭に関わるときに求められる適切な配慮として、受容的な関わり、自己決定の尊重、秘密保持などについて理解する。 ・多様な支援の展開・関係機関との連携について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子ども家庭支援の意義と必要性		子ども家庭支援の位置づけ、家族による子育てを支援する制度や民間活動の概要		
2	子ども家庭支援の目的と機能		児童福祉法、保育所保育指針、幼稚園教育要領に示されている子ども家庭支援の目的と機能		
3	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進		子ども家庭福祉の施策体系やその計画的推進、子ども・子育て支援新制度創設に至る経緯と新制度の枠組み、実施体制		
4	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		子育て家庭の福祉を図るための社会資源の活用と課題と展望		
5	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		保育の専門性と相談援助の関連性、専門性を活かした子育て支援の在り方		
6	子どもの育ちの喜びの共有		子どもたちの成長を保護者とともに感じ、喜び合い、共有することの意味		
7	保護者および地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援		地域の子育て家庭を取り巻く環境の把握と保護者に対する支援		
8	保育士に求められる基本的態度		ワーカーがとるべき7つの基本的態度(バイステックの7原則)		
9	家庭の状況に応じた支援		保育者に求められる役割と見落としやすい家族の状況		
10	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力		地域の多様な資源と自治体・関係機関との連携・協力に関する基本事項と実際の在り方		
11	子ども家庭支援の内容と対象		子ども家庭支援の対象、内容とアプローチの方法、支援の携帯		
12	保育所等の利用する子どもの家庭への支援		保育にたずさわる専門職に求められる子どもの家庭への支援、保育ソーシャルワークの視点		
13	地域の子育て家庭への支援		地域で子育てをしている家庭への支援、保育所における地域の子育て家庭に対する支援		
14	要保護児童およびその家庭に対する支援		要保護児童の現状を理解、児童・家庭への支援のあり方		
15	子育て支援に関する課題と展望		子育て支援のニーズの多様化、子育て支援プログラムの導入・課題		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、レポート提出・内容20点、授業への取組み10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)松原康雄・村田典子・南野奈津子(編)『新・基本保育シリーズ⑤ 子ども家庭支援論』中央法規、2019					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育者論	担 当	沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育所に保育士及び所長として勤務		
【授業の概要】					
子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育士の専門性や制度的な位置付け等について教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育士の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性及び保育の質の向上について考察し、理解する。 ・保育士の連携・協働について理解する。 ・保育士の資質向上について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育士の役割		児童福祉法に規定された保育士の二つの役割についての理解		
2	保育士の役割と職務内容		保育士の専門性にそった6つの役割と職務についての理解		
3	事例からみる保育士の役割		遊び場面における保育士の援助についてグループワーク		
4	保育士の倫理 -全国保育士会倫理綱領-		保育士に求められる専門的倫理についての理解		
5	保育士の資格と責務		保育士の定義、保育士の資格とその要件についての理解		
6	養護及び教育の一体的展開		保育の具体的事例から「養護」「教育」を理解し、一体的に展開されていることについて理解を深める。		
7	家庭との連携		保護者支援の必要性、子育て支援の基本の理解		
8	計画に基づく保育の実践と省察・評価		PDCAサイクルの必要性、子どもの主体性と指導の計画性の理解		
9	保育の質の向上・適切な保育とは		子どもの主体性の尊重による保育の質の保障の理解		
10	保育における職員間の連携・協働		保育における引継ぎ、情報の共有化の重要性について理解		
11	専門職員及び専門機関との連携・協働		個別的な配慮が必要な子どもへの対応について、グループワーク		
12	地域社会との連携・協働、関係機関等の連携		子どもの体験を豊かにする自然・人材・行事・施設等の活用及び連携の重要性について理解		
13	学び合う保育者①		保育者の在り方についてグループワーク		
14	学び合う保育者②		省察的实践者である保育士のあり方についての理解		
15	まとめ		わたしの目指す保育士像		
【成績評価の方法と基準】					
定期考査70点、授業への積極的取組・小テストや課題への取り組み30点で評価する。 100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上 A 70点以上80点未満 B 60点以上70点未満 C 60点未満 D					
【テキスト】					
児童育成協会(監)矢藤誠慈郎・天野珠路(編)『新・基本保育シリーズ⑦ 保育者論』中央法規、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
新しい保育講座2「保育者論」汐見稔幸・大豆生田啓友 編著					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの理解と援助	担 当	佐藤 みつよ (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子どもの発達や学びに関する心理学的知見を、保育者になった際に実践で活かすことができるよう、グループワークでの学び合い等とおし、理解を図る。					
【授業の到達目標】					
・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するための基本的な考え方や具体的方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における子ども理解の意義		保育者の仕事と子ども理解、子ども理解の位置づけ		
2	子どもに対するかかわりと共感的理解		共感的理解の意味、受容や共感的理解を示す表現技法		
3	子どもの生活や遊び		乳幼児の基本的生活習慣の獲得、乳幼児期の遊び		
4	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達		子どもを取り巻く人的環境とそのあり方・とらえ方		
5	子ども相互のかかわりと関係づくり		仲間とかかわるきっかけ、かかわりにおける保育者の役割		
6	集団における経験と育ち		遊び集団の成立過程、集団遊びにおける保育者の援助		
7	発達における葛藤やつまづき		いざこざの発達の変化、自我の発達		
8	保育の環境の理解と構成		子どもと環境、保育者と環境、環境構成の原則		
9	環境の変化や移行		さまざまな環境の変化や移行の場面とその影響要因		
10	子ども理解のための観察・記録と省察・評価		子ども理解の方法、観察・記録の方法、省察・評価の役割		
11	子ども理解のための職員間の対話		保育における対話と協働、保育カンファレンス		
12	子ども理解のための保護者との情報共有		保護者との情報共有の意義、情報共有の方法		
13	発達の課題に応じた援助とかかわり		「個人差」と「発達過程」の定義、発達の最近接領域		
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助		特別な配慮を要する子ども、インクルーシブ保育		
15	発達の連続性と就学への支援		発達と学びの連続性、保幼小連携		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、提出物・受講態度50点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
清水益治、森俊之(編)『新基本保育シリーズ⑩子どもの理解と援助』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル、2018					
【備 考】					

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	子どもの食と栄養	担 当	谷野 真弓		
【授業の概要】					
子どもの発育・発達と食生活の関係、特別な配慮を要する子どもの食への対応について解説する。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食の問題を取り上げ、小児期からの食育の重要性についても理解させる。「楽しく食べる子ども」を目標に、食育の事例研究から媒体作成、発表へと、食育の実践に必要な演習を展開する。					
【授業の到達目標】					
・子どもの発育・発達に応じた栄養と食生活について理解する。 ・食育の重要性を理解し、それを実践するための基本的な能力を身につけることができる。 ・特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活①		学童期・思春期の成長と発達、食生活の特徴		
17	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活②		妊娠期や授乳期の栄養と食生活、「妊産婦のやせが次世代の健康に及ぼす影響」より自己の食生活を考える		
18	保育における食育の意義・目的と基本的考え方		子どもの食生活の問題点、食育推進のための体制づくり、食育基本法、保育所等における食育の考え方		
19	食育の内容と計画および評価①		食育の内容と計画および評価、食育のための環境		
20	食育の内容と計画および評価②		保育所における食育実践事例の調査、食育実践事例紹介		
21	食育の内容と計画および評価③		食育実践計画①、食育媒体作成①		
22	食育の内容と計画および評価④		食育実践計画②、食育媒体作成②		
23	食育の内容と計画および評価⑤		食育媒体作成③		
24	食育の内容と計画および評価⑥		食育媒体作成④		
25	食育の内容と計画および評価⑦		食育実践発表①、意見交換		
26	食育の内容と計画および評価⑧		食育実践発表②、意見交換		
27	食育の内容と計画および評価⑨		食育実践発表③、意見交換		
28	食育の内容と計画および評価⑩ 地域や家庭と連携した食育の展開		食育実践発表まとめ 地域の関係機関・職員間の連携、食生活に関する保護者への支援		
29	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 特別な配慮を要する子どもの食と栄養①		家庭や児童福祉施設における食事と栄養 疾病および体調不良の子どもへの対応		
30	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②		慢性疾患の子どもへの対応、食物アレルギーのある子どもへの対応、 障害のある子どもへの対応・配慮		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査60点、授業態度25点、課題提出15点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)堤ちはる・藤澤由美子(編)『新・基本保育シリーズ⑫ 子どもの食と栄養』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	保育の計画と評価	担 当	梶原 礼 (実務経験者)		
			幼稚園に教諭として勤務		
【授業の概要】					
子ども理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)、全体的な計画及び具体的な指導計画の作成の基本について教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	保育における計画の意義①		計画の意義や必要性、主体性と計画性及び計画の要点		
2	保育における計画の意義②		全体的な計画作成の基本とポイント、振り返りの重要性		
3	日本におけるカリキュラムの基礎理論		カリキュラムの類型及び歴史		
4	子ども理解に基づく保育の循環		カリキュラム・マネジメントの必要性やアクティブ・ラーニング		
5	保育所保育指針の改定内容		規範性を有する基準としての性格、資質・能力、10の姿		
6	全体的な計画の作成の基本原則と方法		全体的な計画の作成の基本		
7	指導計画の作成①		指導計画の必要性和留意事項、長期・短期の指導計画		
8	指導計画の作成②		月案作成グループワーク		
9	指導計画の作成③		月案作成グループワーク		
10	保育の評価		評価の意義、記録の目的・意義と子どもの内面理解		
11	0歳児の指導計画		3つの視点と5領域、指導計画作成の留意点		
12	1歳以上3歳未満児の指導計画		個人差・家庭との連続した生活を考慮した指導計画		
13	3歳児・4歳児の指導計画		指導計画作成の基本、指導計画の実際と展開の理解		
14	5歳児の指導計画		子どもの姿の理解、指導計画(指導案)の考え方		
15	小学校との接続、まとめ		子どもの育ちを小学校へつなぐ要録作成の意味、授業の振り返り		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査70点、提出物・受講態度30点により判断する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協議会(監)千葉武夫・那須信樹(編)『新保育基本シリーズ⑬ 教育・保育カリキュラム論』中央法規、2019 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	選択必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	器楽Ⅳ	担 当	安部 千鶴 米田 昌子		
【授業の概要】					
保育に必要な音楽教育のために、テキストを使った個別指導を行い、ピアノの演奏技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・保育者に求められるピアノの演奏形態と音楽表現の基礎を身に付ける。 ・子どもの歌を曲の特徴や表情に合わせて表現する力を身に付ける。 ・マーチやスキップなど、子どもの動きに合わせて演奏する力を身に付ける。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	連弾曲の学習、イ短調の音階、73番		独奏曲、連弾曲の演奏について、イ短調の主要三和音		
2	連弾曲の学習、74番、「どんぐりころころ」		平行調への転調、フレーズとテンポを意識した演奏		
3	連弾曲の学習、75番、105番、「にじ」		左手保持音、右手付点音符と三連符の復習		
4	連弾曲の学習、二長調の音階、89番		二長調の音階、装飾音と腕の交差		
5	連弾曲の中間発表		お互いの演奏を聴き、アンサンブルへの理解を深める		
6	連弾曲の学習、「あめふりくまのこ」		付点、3連符、リズムの理解		
7	連弾曲の学習、「あめふりくまのこ」		ペダルの練習、歌詞の内容の理解と表現		
8	連弾曲の学習、「あわてんぼうのサンタクロース」		両手伴奏、歌詞の内容を伝えるような歌い方の工夫		
9	連弾曲の学習、「あわてんぼうのサンタクロース」		リズムにのった軽やかな演奏の工夫		
10	連弾曲の発表		既習曲の発表①、連弾曲の学習のまとめ		
11	発表する曲の選曲・練習、「犬のおまわりさん」		2年間で学んだ内容の振り返りと発表曲の選曲		
12	発表曲の練習、「雪」		左手伴奏形の変化を意識した弾き方		
13	発表曲の練習、「うれしいひな祭」		ハ短調の理解と演奏の仕方		
14	発表曲の練習		強弱やフレーズを意識した演奏		
15	バイエル、弾き歌い曲、自由曲の発表		既習曲の発表②、2年間のまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
課題曲及び選択曲で行う実技発表70点、授業時の実技評価及び授業態度30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
大学音楽教育研究グループ(編著)『教職課程のための大学ピアノ教本 バイエルとツェルニーによる展開』教育芸術社、2014 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	音楽表現Ⅲ	担 当	渡 邊 砂 子		
【授業の概要】					
子どもの音楽表現を豊かにするために、歌唱表現の基礎的な知識・技術を教授する。					
【授業の到達目標】					
・呼吸法や発声法を身に付ける。 ・合唱を通して曲の特徴を理解し、歌詞の意味を生かした歌い方を工夫することができる。 ・オペレッタを通して、演技と歌唱及び舞台演出等について学ぶ。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	歌唱表現の基礎①		呼吸法・発声法、旋律の歌い方の工夫		
2	歌唱表現の基礎②		二重唱や三重唱の歌い方の工夫		
3	歌唱表現の基礎③		歌詞の意味及び曲の特徴を生かした歌い方の工夫		
4	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」①		物語と配役についての理解		
5	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」②		歌やセリフの練習、背景づくり		
6	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」③		歌やセリフの練習、背景づくり、衣装づくり		
7	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」④		歌やセリフの練習、背景づくり、衣装づくり、動きの練習		
8	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」⑤		全体通し練習		
9	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」⑥		全体通し練習		
10	オペレッタ「うりこ姫とあまんじゃく」⑦		全体通し練習、評価		
11	子どもの歌の指導法と実践①		指導する子どもの歌の選曲及び指導方法の話し合い		
12	子どもの歌の指導法と実践②		子どもの歌の指導法の工夫及び二人一組での実践		
13	子どもの歌の指導法と実践③		子どもの歌の指導法の工夫及び二人一組での実践		
14	子どもの歌の指導法と実践④		子どもの歌の指導法の工夫及び二人一組での実践		
15	まとめ		振り返りとまとめ		
【成績評価の方法と基準】					
授業中及び発表会での実技の評価70点、受講姿勢30点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
荒井弘高・中尾かつ江・三沢大樹(編著)『歌唱の基礎』圭文社、2017 鈴木恵津子・富田英也(監修・編著)『改訂ポケットいっぱいのうた 実践こどものうた 簡単に弾ける144選』教育芸術社、2017					
【参考書】					
井出真生 構成・振付「おはなしミュージカル」ドレミ出版 2013					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	障害児保育	担 当	大本 良子		
【授業の概要】					
保育現場における特別な配慮の必要な子どもへの理解と対応について、講義や演習、協議等をとおして理解させる。 また、家庭や関係機関との連携を図りながら、小学校への就学に向け、保護者と関係機関との連携・協働の必要性について理解を深めさせる。					
【授業の到達目標】					
1 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 2 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 3 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 4 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 5 障害児その他の特別な配慮を必要とする子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	指導計画及び個別の支援計画の作成②		個別の支援計画、指導計画作成後の活用と課題		
17	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い①		障害のある子どもにとっての遊びと環境への適応		
18	発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ち合い②		障害児保育の形態、障害児保育を行う際の配慮等		
19	障害児保育における子どもの健康と安全①		障害児保育における健康と安全、安全管理の問題		
20	障害児保育における子どもの健康と安全②		医行為、保育者が行う処置の条件		
21	職員間の連携・協働①		保育所の職員と保護者、専門機関などとの連携・協働		
22	職員間の連携・協働②		障害のある子どもの保育の在り方の変遷		
23	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援①		障害のある子どもの保護者への支援の基本姿勢、障害受容、保護者や家庭への支援の方法		
24	保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援②		保護者同士の交流や支え合い、きょうだいへの支援		
25	地域の専門機関との連携①		地域の関係機関と専門機関との連携の内容や方法		
26	地域の専門機関との連携②		地域の専門機関との連携と保育所が求めるニーズの現状		
27	小学校等との連携①		小学校への就学指導にかかる基本的事柄、就学先決定に係る手順		
28	小学校等との連携②		小学校等への就学後の支援の実際、移行支援の現状や課題		
29	福祉・教育における現状と課題①		障害児を取りまく制度の変化と関係法令		
30	福祉・教育における現状と課題②		特別支援教育の推進、地域での連携方法と意義		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査50点、課題提出・配布資料の整理40点、受講姿勢10点 前学期・後学期の成績を平均し、通年で評価。 100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
児童育成協会(監)西村重稀・水田敏郎(編)『新基本保育シリーズ⑰ 障害児保育』中央法規、2019					
【参考書】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	専門科目	必修	1単位 30時間	授業形態(演習)
科目名	子育て支援	担 当	安 東 和子		
【授業の概要】					
少子化社会における子育ての現状や子育て支援の意義等について演習・協議をとおして、理解を深めさせる。					
【授業の到達目標】					
・保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。					
【授業の計画】			【内 容】		
1	子育て支援とは		子育て支援の在り方とその意義、保育者の役割と職務内容		
2	子育て支援の意義		保育所・認定こども園の役割、専門的知識・技術		
3	子育て支援の基本的価値・倫理		保育所保育指針等、子育て支援の基盤となる価値・倫理		
4	子育て支援の基本的姿勢		保護者との人間関係構築のために必要な保育者側の心構えや態度		
5	子育て支援の基本的技術		子育て支援に必要なコミュニケーション技法		
6	園内・園外との連携と社会資源		他職種や地域の人々との連携		
7	記録・評価・研修		文章の書き方、記録作成時に活用する図やチェックリスト		
8	日常会話を活用した子育て支援		送迎時の保護者とのコミュニケーションの基本		
9	文書を活用した子育て支援		保護者向け文書の書き方の習得		
10	行事などを活用した子育て支援		子育て支援における行事等の意義と支援内容		
11	環境を活用した子育て支援		子育て支援における環境の構成と特性		
12	地域子育て支援拠点における支援		地域子育て支援拠点における事業内容と支援方法		
13	入所施設における子育て支援		入所施設を利用する保護者への支援内容・支援方法		
14	通所施設における子育て支援		通所施設を利用する保護者への支援内容・支援方法		
15	まとめと今後の課題		これまでの学びの振り返りと今後の自己課題の明確化		
【成績評価の方法と基準】					
前学期定期考査50点、課題の提出20点、授業への積極的取組20点、学習ノートの整理等10点により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評価は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
二宮祐子(著)『「子育て支援」15のストーリーで学ぶワークブック』 萌文書林、2018 厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』フレーベル館、2018					
【参考書】					
特になし					
【備 考】					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 通年(後期)	専門科目	必修	通年2単位 後期30時間	授業形態(演習)
科目名	保育実践演習	担 当	安東 和子 沖田 由紀子 (実務経験者)		
			保育士並びに所長として勤務		
【授業の概要】					
グループワーク、ロールプレイング等の授業方法を活用し、これまでの自らの学びを振り返ったり、保育に関する現代的課題について考察したりしながら自己課題を明確化し、保育実践の基礎的な資質・能力を定着させていく。					
【授業の到達目標】					
・保育に関する専門的知識及び技術、責任感、判断力、倫理観、社会性や対人関係能力等が習得されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習での体験や情報の収集等に基づき、保育に関する現代的課題について考察する力を習得する。 ・自己の課題を明確化し、保育実践に際して必要となる基礎的資質・能力の定着をはかる。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	実習の振り返りと自己課題の確認		実習の成果 履修カルテをもとに自己評価		
17	自己課題を克服するための学習計画		自己課題に向けてのPDCAサイクル及び卒業までの学習計画		
18	実習場面のエピソード記録		エピソード記録から保育者の援助や子どもの言動について考察		
19	保育士の役割や職務内容		実習を通しての自らの学びを振り返り、発表、学び合い		
20	非認知能力について		保育実習から学び取った非認知能力についての具体的な姿		
21	子どもを主体とした保育を実践するために①		自然物を使った製作遊び		
22	子どもを主体とした保育を実践するために②		空箱を使った共同製作遊び		
23	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応①		発達の遅れや偏りのある子どもの行動特性の理解とその対応		
24	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応②		不注意や多動、対人関係に課題のある子どもの行動の要因		
25	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応③		障害のある子どもの障害の状態や発達段階、特性と自立支援		
26	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応④				
27	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応⑤		事例をととした保護者への支援の在り方		
28	特別な配慮を必要とする子ども理解とその対応⑥		障害のある子どもの就学に係る関係機関との連携		
29	自分の強みを生かす取り組み		自分の「強み」と「弱み」を把握し、強みを伸ばすための取り組み		
30	まとめ一成長し続ける保育者になるために		今後に向けての課題や未来に向けての決意を発表する		
【成績評価の方法と基準】					
製作や遊び等の保育実践活動20点、グループワーク、発表の積極的取組50点、課題の提出30点により判断する。 前学期、後学期の成績を平均し、通年で評価。100点満点で評価し評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
厚生労働省(編)『保育所保育指針解説』 フレーベル館、2018					
【参考書】					
保育・教職実践演習 野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林					
【備 考】					
・特別支援学校へ訪問予定。 ・将来の保育実践者として、自分自身の課題を意識しながら主体的、協働的に学びましょう。					

シ ラ バ ス

令和7年度

智泉幼児保育専門学校

基本情報	2年 後期	教養科目	必修	2単位 30時間	授業形態(講義)
科目名	文学	担 当	富成 碩甫		
【授業の概要】					
日本の文化としての昔話を理解することで、よりよい保育・幼児教育をめざす向上心を養う。昔話の変遷を知ることで保育現場での困難性、問題点を解決する能力を養う。日本の昔話を学ぶことで日本文化の伝統と民族性を理解することができるようにする。子どもたちが、日本人としての強さと誇りとを持ったおとなになれるよう、日本の伝統文化や民族性を伝える技術を身につけさせる。					
【授業の到達目標】					
・保育・幼児教育に対する使命と責任とを自覚し、個性豊かな人間性を持った保育・幼児教育者になることを目標にする。 ・保育専門職としての課題探求能力・問題解決能力などの実践力を養うことを目標とする。					
【授業の計画】			【内 容】		
16	テーマ1 愛と別れ「蛇喰入」「狐女房」		人間が異類と結婚する昔話(異類婚姻譚)を題材にして、その「愛と別れ(夫婦の愛・親子の愛)」が何をもたらすのかを考える		
17	テーマ2 恵み「地蔵浄土」「鼠浄土」		庶民の地蔵信仰を反映した昔話を題材にして、将来子どもたちが絶望を味わった時、いかに生きるかを子どもたちに伝えられるようにする		
18	テーマ2 恵み「おむすびころりん」「笠地蔵」		他者を思いやるやさしい心を伝えることができるようにする		
19	テーマ3 逃走「三枚の護符」「牛方山姥」		逃走譚である二つの昔話を題材にして、命の大切さを伝えることができるようにする		
20	テーマ4 夢と運「藁しべ長者」「鳩提灯」「三年ねたろう」		「運」というものは、その人の人生を変えてしまうこともある 三つの昔話から、人生において「運」はどのように作用するのかを考える		
21	テーマ5 冒険「一寸法師」		子どもの心をとらえる冒険の昔話「一寸法師」を題材にして、勇気を持つことの大切さを伝えることができるようにする		
22	テーマ5 冒険「桃太郎」		鬼ヶ島遠征譚である「桃太郎」を題材にして、平和の大切さ、愛国心の大切さを伝えることができるようにする		
23	テーマ6 悪と欲「瘤取爺」「舌切雀」「花咲爺」		勧善懲悪を扱った昔話の強欲な婆爺を扱った話を題材にして、人間の心の中にある「悪と欲」に打ち勝つことの大切さを伝えることができるようにする		
24	テーマ7 報復「猿蟹合戦」		正当な報復を語った昔話「猿蟹合戦」を題材にして、報復することのむなしさと終わりのなさを伝えることができるようにする		
25	テーマ7 報復「かちかち山」		正当な報復を語った昔話「かちかち山」を題材にして、報復することのむなしさと終わりのなさを伝えることができるようにする		
26	テーマ8 笑いとおんち「餅は本尊様」「茶栗柿麴」		笑話と呼ばれる昔話を題材にして、ユーモアの大切さと、人生にゆとりをもつことの大切さを伝えることができるようにする		
27	テーマ9 友情「旅人馬」		他者の人格を大切にすることが真の友情である 「旅人馬」を題材にして、友情の大切さを伝えることができるようにする		
28	テーマ10 時代「浦島太郎」①		「浦島伝説」を題材にして、日本文化に親しむことの大切さを伝えることができるようにする		
29	テーマ10 時代「浦島太郎」②		「浦島伝説」を題材にして、日本文化に親しむことの大切さを伝えることができるようにする		
30	まとめ		保育士としての仕事の中に「昔話」や「児童文学」を取り入れ、子どもたちの心を豊かにすることができるようにする		
【成績評価の方法と基準】					
後学期定期考査(講義内容についての筆記試験60点、作文40点)により評価する。100点満点で評価し、評価点60点以上を合格とする。 評定は、評価点80点以上:A 70点以上80点未満:B 60点以上70点未満:C 60点未満:D とする。					
【テキスト】					
真野須美子(著)『日本の昔話の変遷・メッセージ』明治図書出版、2015					
【参考書】					
関敬吾(著)『日本昔話集成』角川書店、1970					
【備 考】					